

6. 成果指標・見直し基準（案）

6-1. 成果指標（案）

事業を実施するに当たって「何が達成できたら成功と言えるのか」が分からなければ、評価することが出来ない。また、何を目標に活動して良いのか分からないといった問題が生じる。この問題を回避するために、目的の達成度を測る物差しとして「成果指標」を設定する必要がある。

糸満市～那覇空港直行バスを評価する指標として、以下のとおり「サービス評価」、「事業評価」、「政策評価」の3つが想定される。

「サービス評価」は、目標とする成果を達成するために提供されるバス交通のサービス水準が保障されているのかに関する評価である。「事業評価」は、サービス提供がバス事業に及ぼす影響に関する評価で、サービス供給サイドの運営状況を分析する評価である。「政策評価」は、バス交通ネットワークの形成により利用者が目標とする成果を享受できたかという成果指標の達成度に関する評価である。

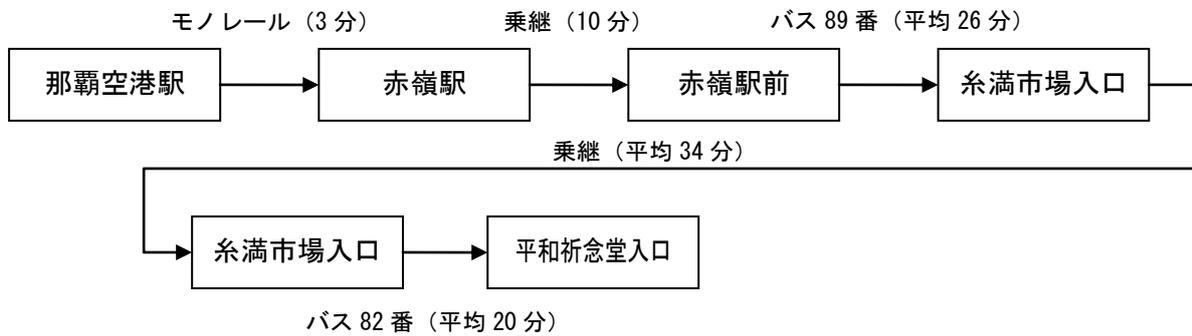
評価の視点

評価項目	サービス評価	事業評価	政策評価
評価の視点	路線に求められる役割を果たすためのサービス水準が確保されているかを検証。	提供されたサービスが有効に機能しているかを路線の利用者数や費用効率面から評価	路線の設定する運行目的が達成されているか、また、提供されている路線のサービスに対し、利用者から一定の評価が得られているかを評価。

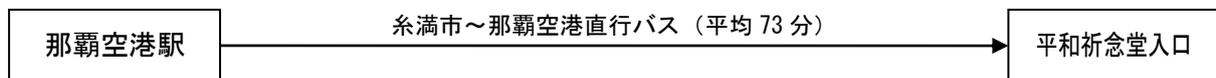
(1) 速達性の向上

① 「那覇空港」から「糸満観光農園」までの所要時間の短縮

<現 況>平均 93 分

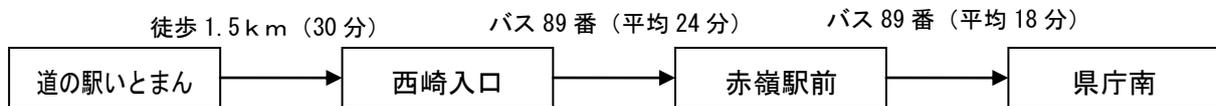


<実験期間>平均 73 分

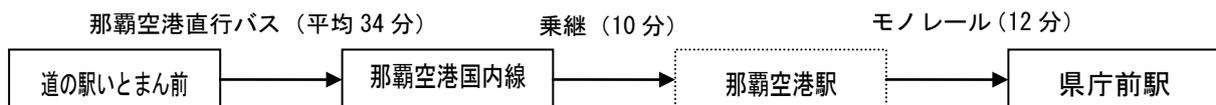


② 「道の駅」から「県庁前」までの所要時間の短縮

<現 況>平均 72 分



<実験期間>平均 56 分



(2) 利用者数の増加

①糸満市～那覇空港直行バスの利用者数

<現 況>0 人/日

<実験期間>平均 113 人/日

需要予測の結果より

②糸満市主要観光施設の入込み客数（推計）

糸満市主要観光施設の入込客数（5月～12月）

5月～12月の合計

	H22年	H23年	H24年	H25年 (推計)	H26年 (推計)
ひめゆり平和祈念資料館 (ひめゆりの塔)	341,886	341,565	317,484	—	—
沖縄県平和祈念資料館	204,462	199,890	180,417	—	—
糸満観光農園	42,609	108,604	90,458	—	—
美々ビーチいとまん (糸満漁港ふれあい公園内)	169,186	179,752	71,657	—	—
琉球ガラス村	154,630	151,801	149,929	—	—
入込客数計	912,773	981,612	809,945	769,448	730,975

資料：糸満市商工観光課統計資料

<現 況>約 731,000 人

○糸満市主要観光施設の入込み客数の変化率

$$= (\text{①平成 22 年から平成 23 年の変化率} + \text{②平成 23 年から平成 24 年の変化率}) \div 2$$

$$= (\text{①平成 23 年計 981,612 人} \div \text{平成 22 年計 912,773 人} + \text{②平成 24 年計 809,945 人} \div \text{平成 23 年計 981,612 人}) \div 2$$

$$= (\text{①}1.075 + \text{②}0.825) \div 2$$

$$= 0.950$$

○平成 25 年 主要観光施設の入込み客数（5月～12月）

$$= \text{③平成 24 年 主要観光施設の入込み客数 (5月～12月)} \times \text{④糸満市主要観光施設の入込み客数の変化率}$$

$$= \text{③平成 24 年 809,945 人} \times \text{④}0.950$$

$$= 769,448 \text{ 人}$$

○平成 26 年 主要観光施設の入込み客数（5月～12月）

$$= \text{⑤平成 25 年 主要観光施設の入込み客数 (5月～12月)} \times \text{②糸満市主要観光施設の入込み客数の変化率}$$

$$= \text{①平成 25 年 769,448 人} \times \text{②}0.950$$

$$= 730,976 \text{ 人}$$

$$\approx 731,000 \text{ 人}$$

<実験期間>約 735,000 人

○実証実験による主要観光施設の入込み客数

$$= \text{①平成 26 年（推計）観光客数} + \text{②需要推計による観光客数} \times \text{③運行日数}$$

$$= \text{①約 731,000 人} + \text{②26 人/日} \times \text{③153 日}$$

$$= 734,978 \text{ 人}$$

$$\approx 735,000 \text{ 人}$$

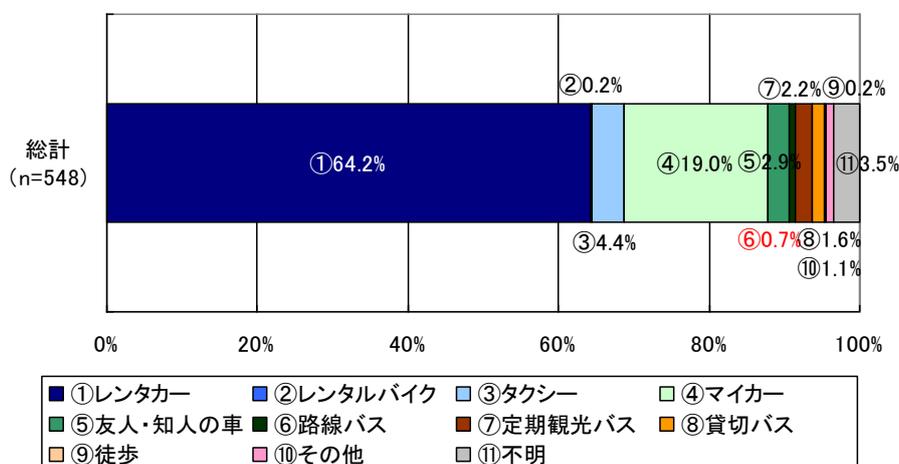
（3）新規利用者の拡大

①観光客の「観光移動」について「路線バス等」で移動した割合

<現 況>路線バス利用者 0.7%

○「平成 25 年度観光客アンケート調査」より、路線バス利用者は 0.7%。

糸満市観光客の移動手段(平成25年度調査)



<実験期間>路線バス利用者 1.2%

○平成 26 年 主要観光施設の入込み客数（5 月～12 月）のバス利用者数

$$= \text{①平成 26 年 主要観光施設の入込み客数（5 月～12 月）} \times \text{②路線バス利用率}$$

$$+ \text{②需要推計による観光客数} \times \text{③運行日数}$$

$$= \text{①731,000 人} \times \text{②0.7\%} + \text{③26 人/日} \times \text{④153 日}$$

$$= 5,117 \text{ 人} + 3,978 \text{ 人}$$

$$= 9,095 \text{ 人}$$

○平成 26 年 主要観光施設の入込み客数（5 月～12 月）

$$= \text{⑤平成 26 年 主要観光施設の入込み客数（5 月～12 月）のバス利用者数}$$

$$\div \text{①平成 26 年 主要観光施設の入込み客数（5 月～12 月）} \times 100$$

$$= \text{⑤9,095 人} \div \text{⑥731,000 人} \times 100$$

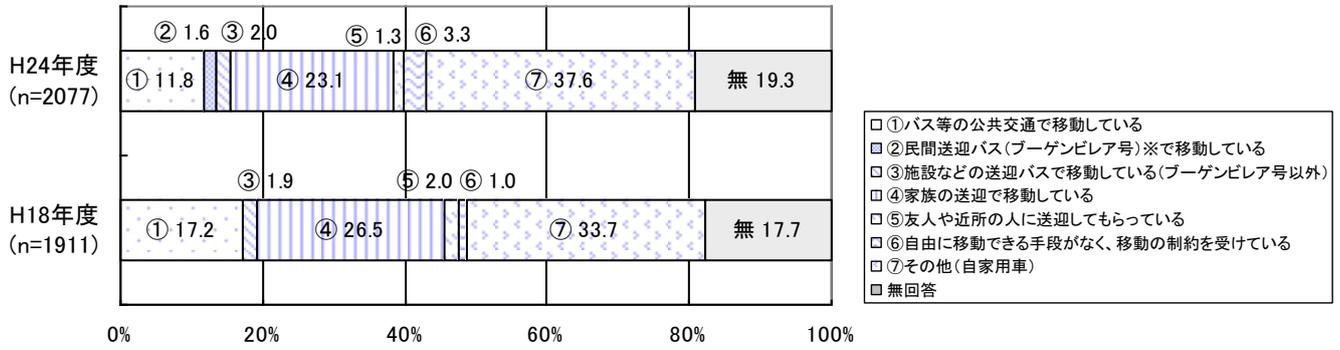
$$= 1.2\%$$

②沿線地区の「日常的な主な移動手段」について「バスなど公共交通で移動している」割合

<現 況>路線バス利用率 11.8%

○「平成 24 年度住民アンケート調査」より、路線バス利用率は 11.8%

問5. 日常の主な移動手段



<実験期間>

○路線バス利用者数

$$\begin{aligned}
 &= \text{①糸満市人口 (平成 25 年末)} \times \text{②路線バス利用率} + \text{③新規利用者数} \\
 &= \text{①}59,851 \text{ 人} \times \text{②}11.8\% + \text{③}745 \text{ 人} \\
 &= 7,062 \text{ 人} + 745 \text{ 人} \\
 &= 7,807 \text{ 人}
 \end{aligned}$$

○路線バス利用率

$$\begin{aligned}
 &= \text{④利用者数} \div \text{①糸満市人口 (平成 25 年末)} \times 100 \\
 &= \text{④}7,807 \text{ 人} \div \text{①}59,851 \text{ 人} \times 100 \\
 &= 13.0\%
 \end{aligned}$$

6-2. 本格運行時における見直し基準（案）

（1）評価の必要性

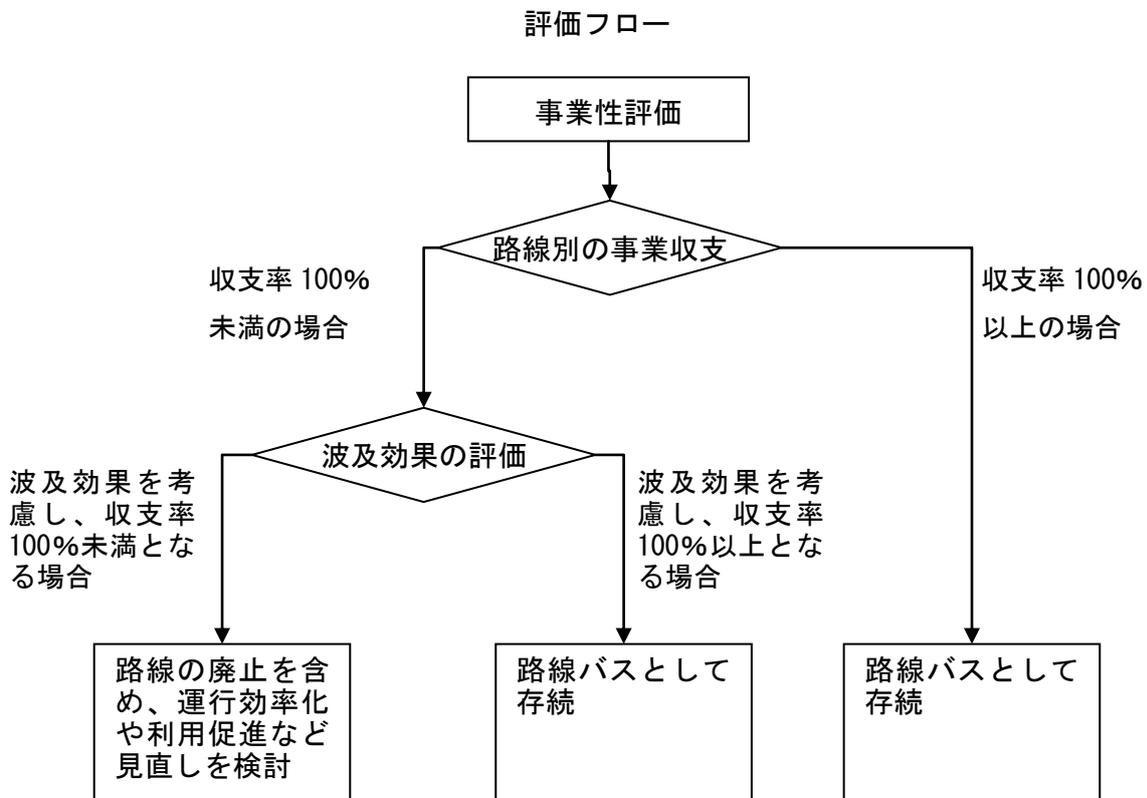
新たに糸満市～那覇空港直行バスを運行するにあたり、補助金等に過度に依存しない持続可能なバス交通体系を構築するためには、現行のバス路線網の評価を行い、必要な見直しを行うことが求められる。

今後、糸満市の公共交通全体を継続的に検証し、かつ適切に実施していく上で、バス路線を交通ネットワークとして評価できる仕組みが必要であり、この点からも現行のバス路線網の評価が求められる。

そのため、糸満市～那覇空港直行バス路線が、不採算となった場合、無条件で維持するのではなく、バス路線としてサービスを継続すべきかどうか等を評価する基準が必要である。

（2）評価指標

糸満市～那覇空港直行バス路線の評価は、事業性の視点から「路線別の事業収支」を評価する。また、糸満市～那覇空港直行バスは、観光客の増加による経済波及効果が期待されることから、「波及効果の評価」を加え評価を行い、路線バスとして存続していくのか、見直しが必要なのか等を評価する。



(3) 路線別の事業収支の評価

需要予測より糸満市～那覇空港直行バス路線は、年間 7,700 千円の補助が必要と見込まれ、収支率 100%未満となることが想定される。ただし、このバス路線は、公共交通であるので、波及効果の評価と合わせて評価すべきである。

需要予測に基づく試算結果 (12 ヶ月)

路線名	年間補助額	運行日	1日利用者数
糸満市～那覇空港 直行バス	7,700 千円	365 日	113 人

(参考) H24 年度 既存路線バスの状況

路線名	年間補助額		運行日	1日利用者数
	年間補助額	市負担額		
国吉線	2,452 千円	1,756 千円	245 日	22 人
南部循環線	22,056 千円	15,907 千円	365 日	76 人
玉泉洞糸満線	9,360 千円	9,360 千円	365 日	119 人
糸満新里線	1,554 千円	982 千円	365 日	106 人
計	35,422 千円	28,005 千円	-	-

(4) 波及効果の評価

平成 22 年度観光統計実態調査（観光消費による経済波及効果の推計）をもとに、糸満市那覇空港直行バス路線の運行により観光客が増加した場合に発生する最大経済波及効果（直接効果）を以下の通り試算する。

①観光消費額

平成 24 年度観光要覧によると、沖縄県における観光消費額は、66,923 円（平均滞在日数 3.75 日）である。観光客アンケートによると、糸満市での滞在日数は半日が最も多い。

よって、糸満市での滞在日数を 0.5 日と仮定し、観光消費額を 5,200 円と設定する。需要予測の平均観光客数 26 人/日より年間観光消費は、49,348 千円（5,200 円×26 人/日×365 日）の増加が見込まれる。

▼観光消費額の推計

項目	沖縄県 消費額(円) (滞在日数=3.75日)
宿泊費	18,358
交通費	9,571
土産・買物費	16,021
飲食費	14,332
娯楽・入場費	7,091
その他	1,550
	66,923



項目	糸満市 想定消費額(円) (滞在日数=0.5日)
宿泊費	0
交通費	0
土産・買物費	2,136
飲食費	1,911
娯楽・入場費	945
その他	207
	5,199

糸満市想定観光消費額=5,200 円
 ・「宿泊費」「交通費」は 0 円とする。
 ・「土産・買物費」「飲食費」「娯楽・入場費」「その他」は 0.5 日分とした。

②経済波及効果

平成 22 年度観光統計実態調査（観光消費による経済波及効果の推計）によると、沖縄県の観光消費額 441,789 百万円から、生じる直接効果は 381,447 百万円である。そのうち、雇用者所得誘発額は 104,682 百万円と推計される。

よって、簡易的に経済波及効果を把握するため、観光消費から生じる直接効果係数を 0.86（直接効果 381,447 百万円÷観光消費額 441,789 百万円）、雇用者所得係数を 0.24（雇用者所得誘発額 104,682 百万円÷観光消費額 441,789 百万円）とし、経済波及効果を算出する。

糸満市年間観光消費が 49,348 千円発生した場合、直接効果は最大で 42,439 千円（49,348 千円×0.86）、雇用者所得は最大 11,844 千円（49,348 千円×0.24）と推計される。

したがって、直接効果から発生する雇用者所得 11,844 千円を、糸満市～那覇空港直行バス路線による経済波及効果と想定する。

図表 88 観光消費による経済波及効果(総合効果)

	経済波及効果 (生産誘発額) (百万円)	付加価値効果 (百万円)	雇用者所得 誘発額 (百万円)	雇用効果 (人)
直接効果	381,447	185,782	104,682	52,581
1次間接波及効果	178,323	91,584	43,069	17,236
2次間接波及効果	101,790	60,864	25,844	9,654
経済波及効果(総合効果)	661,560	338,230	173,595	79,471
観光消費額 (誘発倍率)	441,789 (1.5倍) = 経済波及効果/観光消費額			

(百万円)	
観光消費額	441,789
経済波及効果 (誘発倍率)	661,560 1.50倍

平成 22 年度観光統計実態調査（観光消費による経済波及効果の推計） 報告書より

(5) 事業収支と波及効果による評価

事業性を評価するためには、事業収支の評価と波及効果の評価の 2 つから評価するものとする。

事業収支の評価が赤字になったとしても経済的波及効果がそれを上回るならば、その路線は『存続』と評価できる。

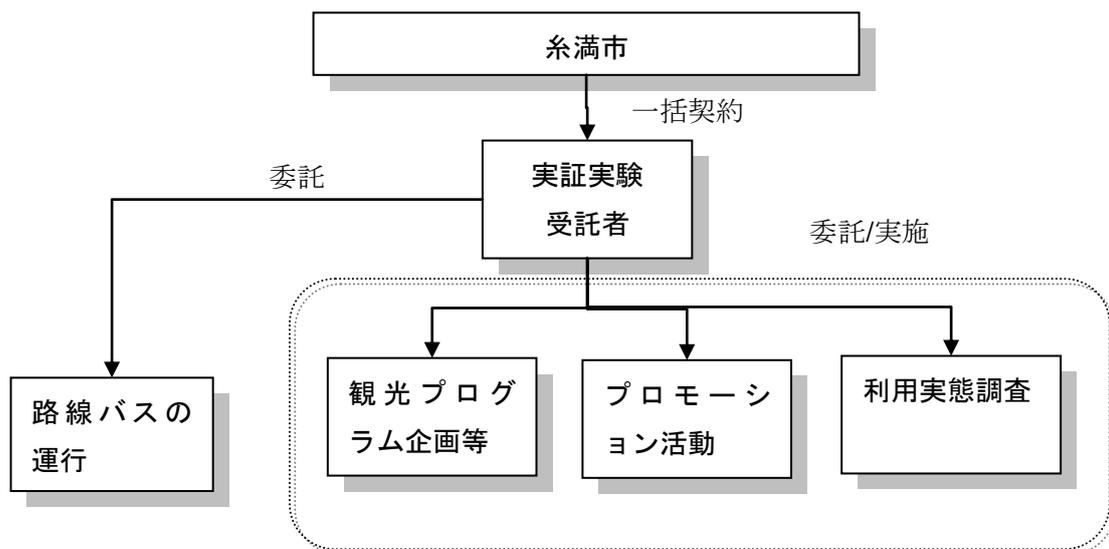
経済効果 > 赤字額・・・存続

7. 実証実験に向けて

7-1. 事業スキーム

実証実験においては、実証実験実施に対する企画を提案してもらい、その中から優れた提案を行った者を選定するプロポーザル形式による受注企業を決定し、受注企業から実証実験に係る各種事業の実施や契約等を行う。

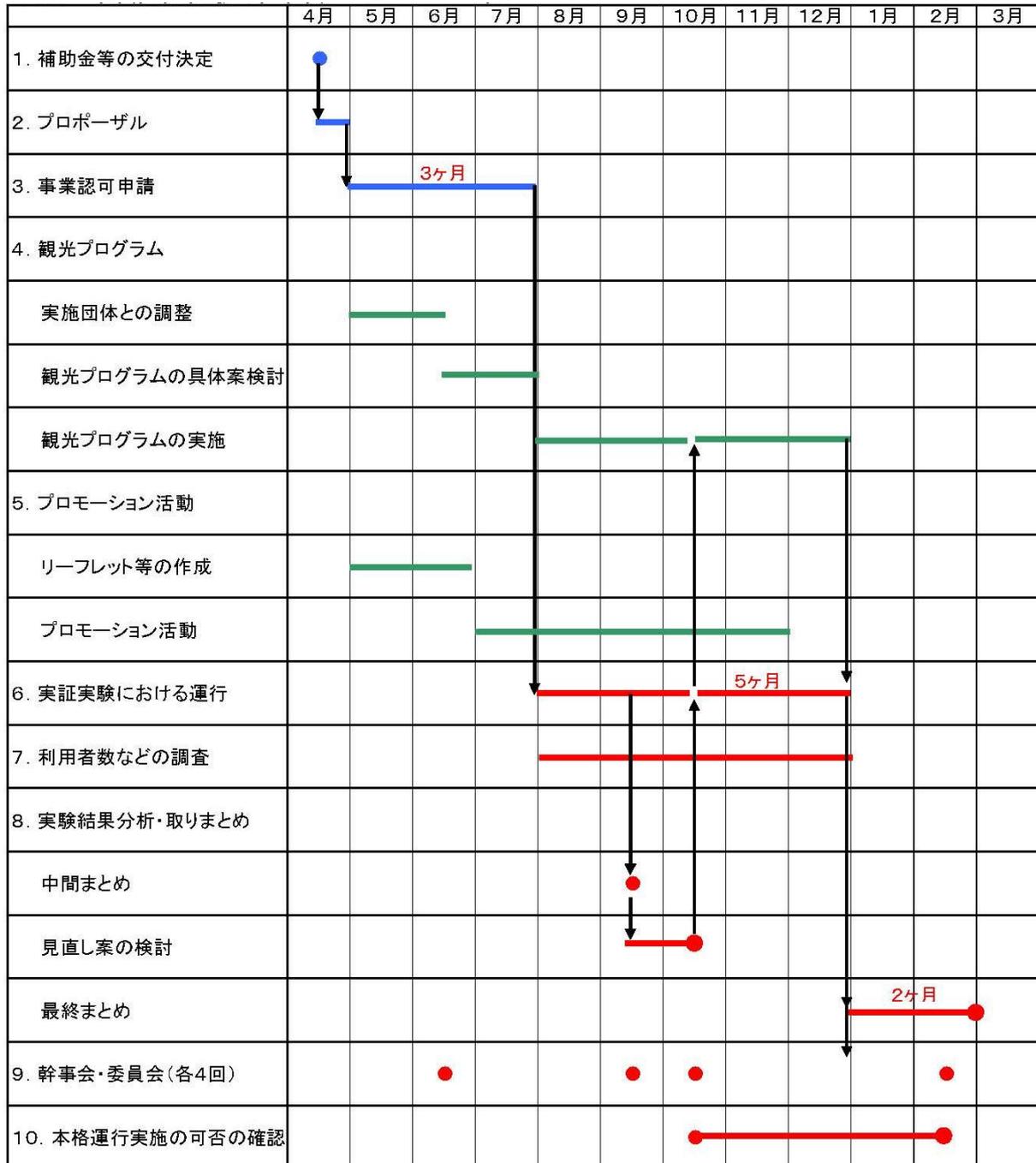
▼実証実験の実施体制イメージ



7-2. 事業スケジュール

実証実験期間は、準備期間3ヶ月、運行期間5ヶ月、成果のとりまとめ等2ヶ月の計10ヶ月程度を想定する。

▼事業スケジュール



8. 参考資料

8-1. 仕様書（案）

（仮称）糸満市～那覇空港直行バス実証実験運營業務委託 仕様書（案）

【業務概要】

業務名 （仮称）糸満市～那覇空港直行バス実証実験運營業務委託

委託場所 糸満市全域（一部、周辺市町村を含む）

契約期間：平成26年5月1日～平成27年3月2日

【業務内容】

1. 糸満市～那覇空港直行バス運行

（1）運行業務

1) 運行期間

平成26年8月1日～平成26年12月28日（153日+1日）

2) 運行方法

道路運送法第4条（一般乗合旅客自動車運送事業）による運行

3) 運行業務

①運行ルート、停留所について

- ・運行ルート及び停留所設置場所は「糸満市～那覇空港直行バスルート図」（別紙）を基本とする。
- ・中間見直し等において、調整が必要な場合は委託者と受託者が協議を行い決定する。
- ・現在、バス停のない停留所には、仮設バス停を設置する。また、糸満市～那覇空港直行バス路線のバス停であることを明確にするため、フラッグ等によるサインを検討する。

②運行日について

- ・平成26年8月1日から平成26年12月28日の平日及び休日とする。
- ※その他の運行日として、イベントと連携したPR活動を1日程度見込む。

③運行時間及び運行回数について

運行時間及び運行回数については次のとおりとする。

- ・運行時間は、那覇空港を基準に午前8:00～午後8:00を基本とする。
- ・運行回数は、1時間に1往復（一日12往復便）を基本とする。

④運賃について

運賃は「対キロ区間制」を基本とする。

- ・例1：那覇空港～糸満観光農園：790円（小児料金：400円）
- ・例2：那覇空港～道の駅いとまん：490円（小児料金：250円）

※運行ルートの一部変更等により、料金変更の可能性あり。

「一日フリー乗車券」の販売やその他の料金割引を実施する。

・一日フリー乗車券：1,500円（小児料金：750円）程度。

※一日フリー乗車券（スクラッチ式を想定）5,000部程度の印刷を含む。

⑤ 運転手・車両の報告について

受託者は、運行業務に従事する運転手の免許証などの写しと運行に使用する車両の車検証の写し及び写真（正面、両側面、後面）を委託者に提出すること。

⑥ 代替車両について

車検・事故等により車両が使用できない場合、代替車両を運行し、空白期間をつくらないこと。

4) 運行車両

① 使用車両について

使用車両は、中型バス（25～28人乗り程度）とし一般乗合旅客自動車運送事業に使用する車両とする。

② 車両デザインについて

車両のデザインについては別途協議とするが、「糸満～那覇空港直行バス」ということをわかりやすく表示すること。

③ 車両設備について

使用する車両設備は次のとおりとする。

- ・Wi-Fi 設備を搭載する。
- ・観光案内用モニターを搭載する。

④ 維持管理について

- ・車両に付随する消耗品、備品を適正に管理すること。
- ・道路運送車両法第47条、第47条の2及び第48条の規定に基づく車両の点検及び清掃など車両の適正な維持管理に努めること。

5) 車両車庫

車両については、受託者の車庫等で保管するものとする。

6) 運賃収入

運賃収入については、受託者の収入とする。

(2) 運行体制等

- 1) 受託者は旅客自動車運送事業運輸規則第48条の2の規定に定めるところによる運行管理規程の写しを委託者に提出すること。
- 2) 運行管理責任者は乗務員及び運行管理業務にかかるものを監督し、常に適正な運行管理に努めること。
- 3) 運行管理責任者は、業務を執行するにあたり交通安全に万全を期し、従事者に交通安全教育を徹底させること。
- 4) 運転中に事故が発生した場合は、運行管理責任者は直ちに事故調査をし、委託者へ事故の詳細を報告するとともに、速やかに事故処理の対応をすること。なお、故障並びに苦情等についても同様とする。

- 5) 受託者は運行ダイヤや運行ルートその他、受託事業にかかる問合せに対し、誠意をもって対応すること。
- 6) 天災その他やむを得ない事由により、運行の変更又は中止をする場合は速やかに委託者に報告すること。

(3) 報告等

- 1) 受託者は業務日誌（乗務員・利用者数・運賃収入・遅延状況等を記載したもの）を作成・保管し、1か月分をまとめた月報を作成のうえ委託者に提出すること。
- 2) 委託者が求めた際には、運行実態が確認できる関係書類を速やかに提示すること。

(4) 損害賠償

- 1) 行業務に起因する損害又は傷害に対する賠償については、受託者がその責めを負うこと。
- 2) 運行車両の自動車損害賠償責任保険、自動車任意保険、その他必要な保険などについては受託者が加入するものとする。

(5) 運行経費

- 1) 上記、委託金額に含むもの。
 - ・ 人件費
 - ・ 燃料油脂費
 - ・ 運行車両の修繕、点検、保管費
 - ・ その他運行に必要な業務にかかる一切の経費
(チラシや停留所への掲示等の作成にかかる経費は除く)
当初予定する運行日数が減じた場合は、日数に応じて委託金額から減じることがある。
- 2) 上記、委託金額に含まず受託者負担とするもの。
 - ・ 租税公課（自動車税・自動車重量税等）
 - ・ 保険料（自動車損害賠償責任保険料掛金、自動車任意保険料掛金）
 - ・ 許認可申請にかかる諸経費など運行準備にかかる一切の経費

(6) その他留意事項

契約に定めのない事項及び契約に変更または疑義が生じた場合は、委託者と受託者の双方が誠意をもって協議のうえ定めるものとする。

2. 観光プログラムの企画・実施

(1) 観光プログラム企画等

1) 観光プログラム企画・実施

- ①糸満市～那覇空港直行バスを利用し訪れた観光客が、糸満市の豊かな自然や文化を体験することで、何度も繰り返し訪れたいくなる体験プログラムを、既存プログラム利用し、4企画以上企画・実施する。

想定される既存体験プログラム（例）

- ・あるつく糸満（漁港コース）
- ・あるつく糸満（真栄里コース）
- ・あるつく糸満（平和祈念堂コース）
- ・米須村丸ごと生活博物館

- ②“①”で企画開発した体験プログラム加え、周辺の観光施設、宿泊施設などと組み合わせた観光プログラムを2企画以上企画、実施する。
- ③糸満市～那覇空港直行バスの車内で、観光ガイドによるガイドアナウンスを企画、実施する。
- ・平成26年8月1日～平成26年12月31日の土日（44日）2往復便を想定。
- ④観光プログラム利用者に対し、アンケート調査を実施する。
- ※①及び②の観光プログラム実施にかかる費用は、収益事業を想定するため、本業務には含まれない。

2) 観光プログラム資料の作成

①観光プログラム資料のデザイン及び印刷製本、配布

上記で検討した観光プログラムや季節毎の糸満市の魅力を盛り込んだ資料の作成

ア 作成部数 5,000部

イ 仕様 A3版、全頁カラー印刷、両面程度

②資料の電子データをホームページ用に加工して提出

(2) 観光ガイドの養成

- ①観光地での体験プログラムの企画や実施に従事できる「観光ガイド」を養成するため、ガイド養成に必要となる研修を3回以上行う。
- ②バス車内の案内に従事できる「観光ガイド」を養成するため、ガイド養成に必要となる研修を3回以上行う。

(3) 関連施設との連携

- ①糸満市～那覇空港直行バスの利用者に対する周辺観光施設等の割引サービス等の協議・調整を行う。
- ②“①”の割引サービスに加え周辺観光施設等に対し、糸満市～那覇空港直行バスの利用者が受けることが出来るサービス等の提案を行う。

3. プロモーション活動等

(1) ポスター・チラシデザイン作製・印刷

以下のポスター・チラシ等のデザイン作製・印刷を行う。

1) ポスター

- ア 作成部数 1,000 部
- イ 仕様 A1 版、カラー印刷

2) リーフレット

- ア 作成部数 30,000 部
- イ 仕様 A3 版（三つ折）、カラー印刷

3) その他、情報誌等

観光情報誌や横断幕等による、情報発信（6ヶ月程度）。

4) 多言語対応

リーフレット等、可能な限り、英語、韓国語、中国語（簡体字、繁体字）の多言語対応とする。

(2) WEBサイト等の作製

1) ホームページの構築及びデザインの作成

①糸満市～那覇空港直行バスが関わる以下コンテンツの発信

- ・おすすめコース・おすすめツアー
- ・利用方法
- ・割引サービス等の紹介
- ・各体験イベントのコースマップ
- ・写真ギャラリー
- ・PR動画
- ・観光マップ
- ・SNS (Facebook、Twitter 等)、YouTube 動画と連携
- ・イベント一覧と外部サイトへのリンク

想定される外部サイトへのリンク（例）

- ・糸満市、沖縄県ホームページ
- ・沖縄観光コンベンションビューロー(OCVB)ホームページ
- ・糸満市観光協会ホームページ
- ・主要観光施設ホームページ
- ・交通事業者ホームページ など

②糸満市～那覇空港直行バスが関わる以下コンテンツの発信

2) Wi-Fi(無線LAN)の構築

糸満市～那覇空港直行バスの車両（車両4台）において、Wi-Fi(無線LAN)の構築を行う。

3) システムの保守運用管理

(3) 情報発信

- ①糸満市～那覇空港直行バスを広くPRするため、新聞・雑誌、テレビ・ラジオ、インターネット（フェイスブック、ブログ、ホームページ）等を活用し、糸満市～那覇空港直行バスや、それらを活用した体験型プログラム、イベント情報等の発信を行う。
- ②糸満市の魅力を効果的に情報発信するため、インターネット動画サイト、及び車内で配信する動画番組を1番組以上及び車内放送を制作する。
- ③沖縄県や沖縄観光コンベンションビューロー(OCVB)が参加する旅行展示会や商談会へ同行するなど、旅行事業者が催行する旅行商品への組み入れや、宿泊プランとして体験プログラムが継続的に実施されるよう、県外旅行イベント等へ参加（2回以上）し、営業宣伝活動を行う。

4. 利用実態調査・運行計画見直し

(1) 利用実態調査

成果指標の達成度、見直し基準に対する状況、運行計画を見直すため、以下の調査を実施する。

1) 住民アンケート調査（沿線地区）

糸満市～那覇空港直行バスの沿線住民に対してアンケート調査を実施し、路線バス等の利用状況や満足度等を把握する。

※ 沿線：約 6,479 世帯（平成 25 年 10 月広報配布世帯）

2) 観光客アンケート調査

糸満市～那覇空港直行バスの利用状況や観光客ニーズを確認するとともに、運行計画の見直しの基礎資料とする。

※ 調査地：宿泊施設（サザンビーチホテル・スポーツロッジ）、琉球ガラス村、美々ビーチ、道の駅、ひめゆりの塔

3) 利用実態調査

糸満市～那覇空港直行バスの沿線の利用者数・サービス状況を整理するとともに、利用実態及び利用者ニーズはより明確に把握するため、糸満市～那覇空港直行バスの沿線に乗込み、調査を行う。

※ 調査期間：4 台×平日・休日（2 日）×2 回

(2) 運行計画の見直し

1) 中間見直しの検討

① 実証実験の中間時において、利用実態調査の結果等を基に成果指標・見直し基準の状況を確認する。

② 糸満市～那覇空港直行バスの運行計画を再検討する。

- ・ 運行ダイヤ
- ・ 停留所 など

2) 本格運行の検討

① 利用実態調査の結果等を基に実証実験結果を受け、本格運行の可否に向けた検討を行う。

② 糸満市～那覇空港直行バス（本格運行）の運行計画を検討する。

5. 実証実験の運営

(1) 実証実験運営に関する事務

- ・実証実験に関連するイベント、トラブルの問い合わせへの対応
- ・実証実験に関連する許認可の対応や契約全般への対応

(2) 委員会等の運営補助

実証実験の内容、今後の方向性等について協議を行う「検討委員会・幹事会」に諮るための資料作成や調整、委員会の運営補助等を行い、その結果を議事録として整理する。また、委員会の検討内容と市全般の政策と整合性を図る為、庁議報告の資料作成等を行う。

1) 委員会 4回開催

2) 幹事会 4回開催

※幹事会に関しては主体的に運営を行い、幹事報酬費等も委託費内に含む。

3) 庁議等報告 2回

(3) 報告書の作成・印刷

本実験結果を項目ごとに整理し、報告書として取りまとめを行う。

また、報告書は、10 ページ程度に要約した概要版の作成も行う。

報告書は、紙媒体及び電子媒体を納入するものとし、報告書のファイルフォーマットは、マイクロソフトワードとする。

・報告書製本（カラー印刷・くるみ製本・A4版） 60部

・報告書概要版（カラー印刷・A4版） 60部

・電子データ（報告書原稿等・CD-R） 一式

8-2. 事例調査

(1) 県内事例

	那覇市 (那覇市内観光周遊バス ゆいゆい号)	南城市 (おでかけなんじい)	沖縄市 (中心市街地循環バス)
事業概要	<p>○事業主体：那覇市経済観光部（那覇市観光協会）</p> <p>○事業スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度 運行準備 ・平成25年度～実証実験 ・平成27年度～本格運行（予定） <p>本格運行後、バス会社による自主運行へ移行予定。</p>	<p>○事業主体：南城市企画部</p> <p>○事業スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度 計画策定 ・平成25年度 無償実証実験 ・平成26年度から 有償実証実験（予定） ・平成28年度 本格運行（予定） 	<p>○事業主体：沖縄市経済文化部</p> <p>○事業スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度 無償実証実験 ・平成24年度 有償実証実験 ・平成25年度から本格運行へ以降 <p>（1～2年を目処に委託業務から補助業務へ移行予定）</p> <p>※5年後に事業を総括し、継続等の検討を行う。</p>
導入目的	<p>那覇市を訪れる観光客の多種多様なニーズに応えるための一方策とした市内の観光地や宿泊施設等を結ぶ周遊バス事業実証実験。</p> <p>（社）那覇市観光協会が実施している「那覇まちま〜い事業」との連携により、午前中の便にガイドを乗車させ、観光案内の実施と周遊バスを活用した商品開発を行うことにより市内滞在型の観光モデルとして、観光の振興を図る。</p>	<p>4町村合併による市民の移動範囲の拡大に対応するため、経費を押しさえつつ、交通弱者に対する交通手段の確保を期待したオンデマンド交通の取り組み。</p>	<p>中心市街地活性化法に基づき、沖縄市中心市街地活性化基本計画を策定し、平成22年3月内閣総理大臣の認可を得て、活性化に向けた取り組みとしてスタート。</p> <p>中心市街地循環バス実証実験事業の目的は、①中心市街地内における回遊性を向上させ、にぎわいの創出を図ること。②中心市街地居住者の生活利便性の向上を図り、中心市街地の魅力を高め、まち全体としての付加価値を創出することである。</p>
運行計画の概要	<p>○運行ルート：首里城公園、敷名園など主要観光地と宿泊施設を周遊（1周75分）</p> <p>○運行形態：定時定路線型</p> <p>○対象者：利用制限なし（観光客がターゲット）</p> <p>○運行時間：午前8時30分～午後6時（那覇B.T）</p> <p>○運行本数：1日25便（20～25分間隔）</p> <p>○料金：1回220円（1日乗車券660円）</p> <p>○使用車両：中型バス4台</p>	<p>○導入エリア：市内全域（久高島は除く）</p> <p>○運行形態：デマンド型</p> <p>○対象者：65歳以上の交通弱者及び観光客（市民は登録制、観光客は登録無用）</p> <p>○運行時間：午前8時～午後9時</p> <p>○料金：無料（平成26年後から有料を予定）</p> <p>○使用車両：10名乗（レンタカー：5台）</p> <p>○利用方法：事前予約（予約受付は利用の1時間前まで）</p>	<p>○運行ルート</p> <p><胡屋ルート>胡屋地区周辺を循環</p> <p><コザルート>胡屋地域とコザ十字路地域を結び循環</p> <p>○運行形態：定時定路線型</p> <p>○対象者：利用制限なし</p> <p>○運行時間：午前10時～午後7時</p> <p>○運行本数：</p> <p><胡屋ルート>1日15便運行（30分間隔）</p> <p><コザルート>1日16便運行（30～40分間隔）</p> <p>○料金：1回100円（小学生以下、障がい者は無料）</p> <p>○使用車両：小型バス2台</p>
利用促進策など	<ul style="list-style-type: none"> ・準備段階の時点から、各種プロモーション活動を行っている（例：モノレール中吊り広告、空港内の広告、配布用チラシ等の作成・配布、JTB時刻表や情報誌への掲載、旅行商品開発、ホームページ作成など） ・その他、バスラッピング、「那覇ゆいまーるガイド」と連携した車内ガイド、旅行代理店へのPR等を実施 ・モノレールにも乗れる1日乗車券（1,000円）を開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者アンケートによるニーズ調査 ・市ホームページや広報誌等による広報 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者アンケートによるニーズ調査 ・市ホームページや広報誌等による広報

那覇市（那覇市内観光周遊バス「ゆいゆい号」）資料

那覇の人気観光スポットをゆったり巡る

那覇ま〜い

那覇市内観光周遊バス
Naha Sightseeing City Loop

ゆいゆい号



観光に便利!
1日25便
20~25分毎の運行!
(このバスは一方方向のみの運行となります)



乗車料金	
1回運賃	大人 220円 小児 110円 身障者割引 大人 110円 小児 60円
1日乗車券	大人 660円 小児 330円 身障者割引 大人・小児 330円

※左記料金に施設の入場料は含まれません。
※ゆいゆい号は乗り降り自由の路線バスです。1日に何度もご利用の場合は1日乗車券がおトクです。
※1日乗車券は那覇バス・市内線でもご利用できます。
※身障者割引の場合は、障害手帳の提示をお願いします。

ゆいルールもバスも一日乗り放題!
バスモノパス

大人	小児
1,000円	500円

フリー区間: 沖縄都市モノレール全線
那覇バス市内均一区間

沖縄初! 観光に 買物に 移動に **好評運行中!!**



乗車料金	
1回運賃	大人 220円 小児 110円
	身障者割引 大人 110円 小児 60円
1日乗車券	大人 660円 小児 330円
	身障者割引 大人・小児 330円

※上記料金は施設の入場料は含まれません。
 ※ゆいゆい号は乗り降り自由の路線バスです。1日に何度もご利用の場合は1日乗車券がおトクです。
 ※身障者割引の場合は、障害手帳の提示をお願いいたします。

ゆいレールもバスも一日乗り放題!

バスモノパス

大人 **1,000円** 小児 **500円**

フリー区間: 沖縄都市モノレール全線、那覇バス市内均一区間
 ※バスモノパスは、那覇バス営業所、ゆいレール各駅でご購入ください。

那覇市内観光周遊バス「ゆいゆい号」1日乗車券販売窓口

	窓口	TEL	販売時間
那覇バスターミナル	那覇販売所 (那覇バスターミナル内)	098-867-6083	月~土 8:00~20:00 日・祝日 10:00~17:00
	空港事務所 (那覇空港国内線到着ロビー1階)	098-840-1613	9:00~18:00 (年中無休)
	沖繩三越7階	098-869-4137	10:30~19:00、元日休み
その他	デパートリウボウ8階 プレイガイド(パレットくもじ内)	098-867-1171	10:30~20:30 旧盆ワークイ・元日休み
	リウボウ旅行サービス レガザリウボウ1階(ロコアナハ内)	098-860-3232	10:00~19:00 (年中無休)
	沖繩ツーリスト本店 (国際通り)	098-862-1111	月~金 9:30~18:30、 土・祝日 9:30~17:00、日曜日休み
	那覇市観光案内所 (沖映通り)	098-868-4887	月~金 8:30~20:00、 土・日・祝日 10:00~20:00

※車内販売につきましては、枚数に限りがあります。なるべくご乗車前にご購入ください。

バス停名称 一方のみでの運行	
1	那覇バスターミナル(4番のりば)
2	県庁前(ロコアナハ前) 那覇市歴史博物館
3	開南
4	赤十字病院前
5	識名園前 識名園 世界遺産
6	首里駅前
7	首里城前 首里城 園比屋武御殿石門 玉陵 世界遺産
8	金城町
9	石畳入口
10	沖縄都ホテル前
11	DFS前
12	おもろまち1丁目 沖縄県立博物館・美術館
13	安里
14	三越前 壺屋焼物博物館
15	県庁北口 那覇市歴史博物館
16	那覇バスターミナル(降車ホーム)

那覇バスターミナル発 運行時刻		
所要時間 1周約75分 20~25分毎出発		
出発時刻		
8時	30	50
9時	10	30 50
10時	10	30 55
11時	20	45
12時	10	35
13時	00	25 50
14時	15	40
15時	05	30 55
16時	20	45
17時	10	35
18時	00	

- 注意事項**
- 番号順に停車いたします。一方のみでの循環運行です。
 - お急ぎの方や、逆方向へ移動される方は、他路線バス・タクシー・ゆいレールなどを併せてご利用ください。
 - 表記以外のバス停には停車しませんのでご注意ください。
 - 1回運賃に乗り賃料金は含まれません。
 - この時刻表は標準であり、道路状況により遅れる場合がございますのであらかじめご了承ください。
 - 車内での飲食・喫煙・携帯電話のご利用は、ご遠慮ください。
 - 施設によっては定休日がございますので、ご注意ください。

南城市（おでかけなんじい）資料



公共交通の現状と課題

本市の従来の公共交通体系では、4町村の合併による窓口業務等の行政サービス、イベント開催地の変化による市民の移動範囲の拡大に対応できておらず、交通弱者に不便を強いている。

その他にも高齢化や過疎化が進む地域においては、生活交通の弱体化が進み、交通弱者の生活必需品の調達や通院に支障をきたすなど、超高齢社会に対応していない。高齢者以外についても市外への通勤通学においての不便さは若者が定住しない要因となっている。

また、本市は豊富な自然環境と歴史文化遺産を活かした観光産業の振興に力を入れており、周遊型観光のみならず、市内宿泊施設や民泊を活用した体験滞在型観光を推進している。しかし、観光資源の近くに停留所がない、便数が少ない、乗換が不便である等の理由から、路線バスによる観光は困難である。また、レンタカーやマイカーを利用した場合でも、観光地への順路が複雑で所在地がわかりにくく、カーナビを利用してもなかなか辿り着けないといった状況があり、本市の観光振興の妨げとなっている。※観光入客300万人達成にあたり公共交通の果たす役割は大きい。

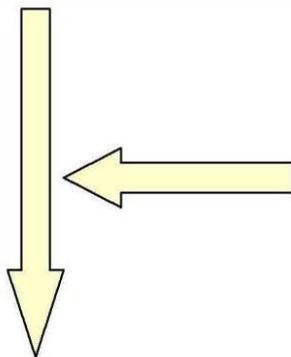
市民（交通弱者）及び観光客の移動手段の確保を目的に、新たな公共交通の見直しについて検討。

デマンド交通に求められる役割の整理

南城市における交通に関する課題、事例研究で把握されるデマンド交通の特徴を踏まえ、南城市におけるデマンド交通に求められる役割を整理した。

【南城市における交通に関する課題】

- 課題①公共交通の運行経路の見直し
- 課題②公共交通の運行頻度の増加
- 課題③沿岸部を中心とした観光客の周遊支援
- 課題④公共交通での南城市への来訪促進
- 課題⑤市内全域に点在する交通弱者の移手段の確保
- 課題⑥交通弱者の広域的な移動支援
- 課題⑦交通弱者の平日・日中の移動支援



【デマンド交通の特徴】

- 決まったルートでの運行や、ルートが定まっていないドア to ドアでの運行など柔軟な運行が可能
- 予約がない場合は、運行を行わないなど需要に応じた効率的な運行が可能
- 小型のバスやタクシーなど路線バスより小型車両での運行されている例が多く、幅員の狭い道路の通行が可能でかつ経済的

役割①公共交通空白・不便地域における路線バスの補完

南城市内にはバス停から離れた地域や、路線バスの運行頻度が少ない地域もあり、運行ルート、運行時間に小回りが利くデマンド交通の特徴を活かした路線バスの補完が求められる。

役割②既存の路線バス等と一体となった公共交通ネットワークの形成

既存のバス路線網は、那覇方面へのアクセス利便性は高いが、南城市内の地区内を結ぶ路線がない、運行頻度が少ないなど利用者からみて不十分な点がある。那覇方面等の市外への移動は路線バス、南城市内からバスターミナルやバス停までの移動はデマンド交通といったような各種公共交通機関が一体となった公共交通ネットワークの形成が求められる。また、南城市においては、庁舎間巡回バスやがんじゅうバス等との整理・統合も検討する必要がある。

役割③持続可能な公共交通ネットワークの形成

南城市では公共交通への財政負担が年々増加している状況であり、デマンド交通の導入による持続可能な公共交通ネットワークの形成が求められる。

役割④南城市への観光需要の喚起

現在南城市に訪れている観光客の大半は、クルマ利用者であり、クルマを運転できない方にとって南城市内の回遊は市内での移動が不便なため訪れにくい状況となっている。このような状況のもと、デマンド交通は南城市への観光需要喚起に向けた回遊手段としての役割が求められる。

役割⑤南城市の活性化に向けた交通弱者の外出促進

南城市内全域にわたって、日常の移動に不便を感じている交通弱者の方が点在し、移手段がないために外出をあきらめている状況がみられる。このような状況のもと、デマンド交通は南城市の活性化に向けた交通弱者の外出促進のための移手段としての役割が求められる。

表 5-6.南城市のデマンド交通の運行形態と実証実験の運行形態

項目	南城市のデマンド交通の運行形態(本格導入)	実証実験での運行形態	備考
導入エリア	対象エリアを限定	久高島を除く市内全域	本格導入時は路線バスとの役割分担を明確にした上で、エリアを設定
利用対象	交通弱者等に利用対象を限定	65歳以上に限定	実証実験では利用状況を見ながら、利用対象を見直し
利用料金	有償	無償	実証実験は、実験内容の変更等の柔軟性を重視し、無償で実施
運行形態	ドア to ドア	ドア to ドア	観光客向け等で定路型の運行も検討
運行曜日・時間帯	平日・休日両方の終日	平日・休日両方の終日	
車両	10人乗りのジャンボタクシー用車両	10人乗りのジャンボタクシー用車両	実証実験で利用した車両を本格実施でも利用
利用方法	—	観光客は登録なし、市民は登録制での1時間前の事前予約	本格導入時は、実証実験の利用方法を引き継ぐ

沖縄市（中心市街地循環バス）資料



🕒 コザルート時刻表 (銀天街地域と胡屋地区を結ぶ行ルート)

バス停名称	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
1 沖縄市役所	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:35	16:12	16:52	17:32	18:15
2 安慶田/バイパス(安室橋)	10:02	10:32	11:02	11:32	12:02	12:32	13:02	13:32	14:02	14:32	15:02	15:37	16:16	16:56	17:36	18:18
3 安慶田/バイパス(徳洲会入口)	10:04	10:34	11:04	11:34	12:04	12:34	13:04	13:34	14:04	14:34	15:04	15:39	16:18	16:58	17:38	18:20
4 銀天街(コザ十字路)	10:06	10:36										15:41	16:20	17:00	17:40	18:22
5 社会福祉センター	10:11	10:41										15:46	16:25	17:05	17:45	18:27
6 農産市場	10:13	10:43										15:48	16:27	17:07	17:47	18:29
7 真間良公民館	10:15	10:45										15:50	16:29	17:09	17:49	18:31
8 沖縄市民会館	10:17	10:47										15:52	16:31	17:11	17:51	18:33
9 コリンザ	10:19	10:49										15:54	16:33	17:13	17:53	18:35
10 一番街・サンシティ	10:21	10:51										15:56	16:35	17:15	17:55	18:37
11 ミュージックタウン	10:23	10:53	11:23	11:53	12:23	12:53	13:23	13:53	14:23	14:53	15:23	16:04	16:44	17:24	18:04	18:52
12 沖縄市役所	10:27	10:57	11:27	11:57	12:27	12:57	13:27	13:57	14:27	14:57	15:27	16:10	16:50	17:30	18:13	19:00

運行間隔約30~40分
1日16便運行

🕒 胡屋ルート時刻表 (胡屋地域を循環する運行ルート)

バス停名称	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
1 沖縄市役所		10:00	10:40	11:20	12:00	12:40	13:20	14:00	14:40	15:20	16:00	16:40	17:20	18:00	18:40	
2 沖縄こどもの国		10:05	10:45	11:25	12:05	12:45	13:25	14:05	14:45	15:25	16:05	16:45	17:25	18:05	18:45	
3 沖縄郵便局												16:48	17:28	18:08	18:48	
4 中の町バス停												16:51	17:31	18:11	18:51	
5 ミュージックタウン												16:53	17:33	18:13	18:53	
6 テレワークセンター		3:05 ↓										16:56	17:36	18:16	18:56	
7 コリンザ												16:59	17:39	18:19	18:59	
8 中の町公民館		3:44										17:04	17:44	18:24	↓	
9 コザ運動公園		3:47										17:07	17:47	18:27	↑	
10 沖縄市文化センター		3:59	10:29	11:09	11:49	12:29	13:09	13:49	14:29	15:09	15:49	16:29	17:09	17:49	18:29	
4 中の町バス停		3:52	10:32	11:12	11:52	12:32	13:12	13:52	14:32	15:12	15:52	16:32	17:12	17:52	18:32	
1 沖縄市役所		9:59	10:39	11:19	11:59	12:39	13:19	13:59	14:39	15:19	15:59	16:39	17:19	17:59	18:39	19:05

運行間隔約30分
1日15便運行

住入宅集積促進策

中心市街地活性化推進課

政策会議 2012.12.27改

中心市街地循環バス実証実験事業

～循環バスの本格的な事業化の可能性を探るための実証実験事業～

● **事業実施の背景**

近年のモータリゼーションの進展、郊外部への市街地の拡大、郊外及び近隣市町村への相次ぐ大型商業施設の乱立等により、中心市街地の空洞化。
商店街のシャッターを開け、中心市街地ににぎわいを取り戻すため、中心市街地活性化法に基づき、沖縄市中心市街地活性化基本計画を策定し、平成22年3月内閣総理大臣の認定を受け、活性化に向けた取り組みをスタート。

-活性化テーマ- **コザらしい生活ができるまち** ～商店街から交流街へ～

【基本方針①】

コザ文化の継承と発展によるにぎわいづくり

コザ文化を基軸としたまちなか交流の促進による**にぎわいの創出**

- ① コザ文化を活用した交流人口の拡大によるにぎわいの創出
- ② 市民ニーズに即した空き店舗の有効活用による魅力ある店舗の創出と魅力ある商業空間の創出
- ③ **回遊性を高めるための仕組みの導入**

【目標】 歩行者通行量(休日)の増加

現況: 5,964人(H21) → 目標: **6,302人**(H26)

【基本方針②】

住む人目線での良好な生活空間の創出

中心市街地全体としての付加価値向上による生活環境の改善

- ① 都市福祉施設の充実による街の付加価値向上
- ② **中心市街地全体としての魅力を高めることによるまちなかにおける生活環境の改善**
- ③ **まちなか居住の推進と多面的な都市機能整備による良好な生活空間の創出**

【目標】 都市福祉施設の年間利用者数の増加

現況: 907,457人(H21) → 目標: **1,021,057人**(H26)

中心市街地活性化推進課

政策会議 2012.12.27改

● **事業の目的**

中心市街地には市役所をはじめ様々な公共施設や都市福祉施設が集積している。これら施設間を循環し、**中心市街地内における回遊性を向上**させ、中心拠点である胡屋地区（ミュージックタウンや商店街）への誘客による**にぎわいの創出**を図る。
また、中心市街地居住者の**生活利便性の向上**を図り、中心市街地の魅力を高め、**まち全体としての付加価値を創出**することによる、中心市街地活性化を目的に中心市街地循環バス事業を実施する。

● **事業概要**

① **中心市街地循環バスの実証実験運行**

＜胡屋ルート＞	
運行期間	平成22年6月～平成25年3月
運行ルート	沖縄市役所、こどもの国、ミュージックタウン、コリンザ、運動公園など胡屋地区周辺を循環
＜コザルート＞	
運行期間	平成24年9月～平成25年3月
運行ルート	沖縄市役所、安慶田バイパス、銀天街、社会福祉センター、市民会館、一番街、サンシティ、ミュージックタウンなど、胡屋地域とコザ十字路地域を結び循環



② **中心市街地の情報発信**

循環バスの車内において、中心市街地のイベント情報や商店街の店舗情報発信するため、チラシの設置や映像を放映したり、イベント開催時期にあわせた車内の飾りつけ等を行い、中心市街地の魅力をPR。



③ **利用者アンケート調査などの実施**

実証実験の結果及び検証



運行実績及び利用者実績

													胡屋ルート	
平成22年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
運行日数(日)			21	31	30	30	31	30	31	31	28		263	
利用者数(人)			2,017	6,097	7,119	6,512	7,162	5,909	5,832	4,752	4,872		50,272	
1日平均(人)			95	197	237	217	231	197	188	153	174		191	
平成23年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
運行日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366	
利用者数(人)	5,050	4,971	6,243	7,347	7,850	6,889	7,319	6,377	6,233	5,583	5,567	6,147	75,676	
1日平均(人)	168	160	208	237	253	230	236	213	201	180	195	198	207	
平成24年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
運行日数(日)	30	31	30	31	29	28	31	30	31	31	28	31	361	
利用者数(人)	5,993	6,239	6,111	7,124	3,746	2,766	5,659	6,146	5,607	5,427	5,277	6,138	66,233	
1日平均(人)	200	201	204	230	129	99	183	205	181	175	188	198	183	

※平成24年8月、9月は有料化実証実験

コザルート

平成24年度	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
運行日数(日)	26	31	30	31	31	28	31	208
利用者(人)	3,378	5,445	5,765	5,791	5,926	6,125	7,178	39,608
1日平均(人)	130	176	192	187	191	219	232	190

※利用者実績及び利用者ニーズにより平成25年3月まで運行を延長



有料化実証実験

本格運行に向けた検討に資するため、以下の内容で有料化実証実験を実施。

【対象ルート】 胡屋ルート

【実験期間】 平成24年8月、9月の2ヵ月間

【料金体系】 1回あたりの利用につき一律**100円**
ただし、「小学生以下の子ども」及び「障がい者※」は無料

※障がい者については、それを証明する手帳など提示により無料



<実験結果（実績）>

	8月	9月	合計
運行日数	29	28	57
利用者実績（人）	3,746	2,847	6,593
一般	2,502	2,043	4,545
小学生以下	856	435	1,291
障がい者	388	369	757
1日あたり平均（人）	129	102	116
運賃収入額	250,200	204,300	454,500

<検証>

①有料化による利用者の増減

➡ **43% 減少**

※平成23年度の同月による比較

②運賃支払対象者の割合

➡ 全利用者の **約70%**

通年運行すると・・・

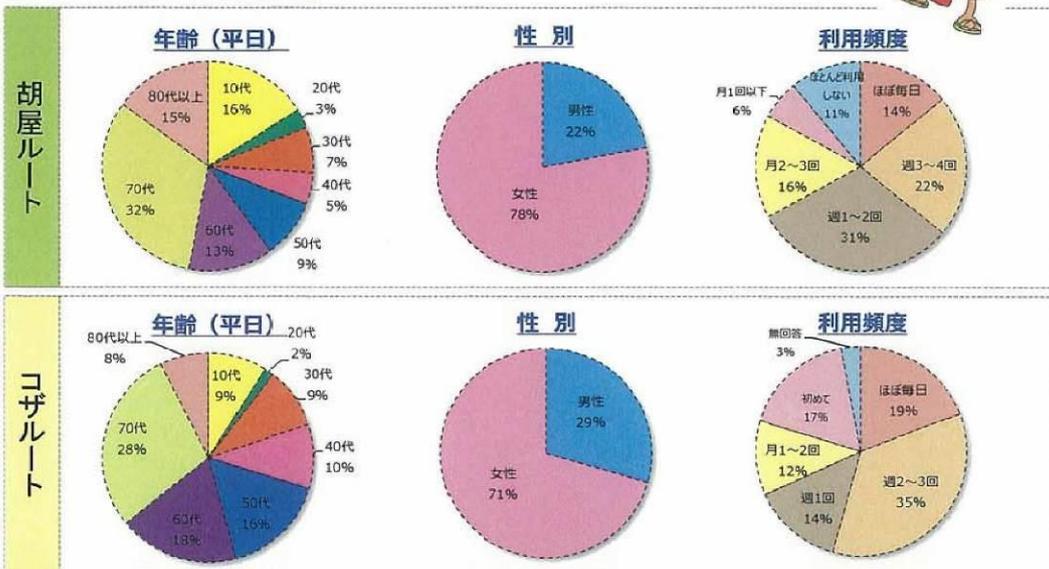
年間の利用者数 ➡ 約45,000人
運賃による収入 ➡ 約3,150千円

事業費の約1/4を賄うことが可能

利用者アンケート調査

本格運行に向け、利用者のニーズ等を探るため、毎年利用者へのアンケート調査を実施。ここでは平成24年度に実施した調査結果を示す。

バス利用者の年齢層及び利用頻度



(2) 県外事例

	兵庫県神戸市 (シティ・ループ)	愛知県名古屋市 (なごや観光ルートバス メーグル)	福岡県福岡市 (福岡シティループバス ぐりーん)
事業概要	<p>○事業主体：(財) 神戸国際観光コンベンション協会 (神戸交通振興株式会社が運行)</p> <p>○沿革 ・平成2年4月から運行開始 「シティループ」は平成14年度末までは、(財) 神戸国際観光コンベンション協会からの委託を受けて神戸市交通局が運行。 平成15年度からは、神戸交通振興株式会社(神戸市交通局の外郭団体)が運行。</p>	<p>○事業主体：名古屋市市民経済局 (名古屋市営バスが運行)</p> <p>○沿革 ・平成19年7月から運行開始 当該路線は、名古屋市交通局のものではなく、名古屋市市民経済局が主体となって運営し、交通局が受託運行。車両は、名古屋市が所有しており、交通局が借り受けて運行。</p>	<p>○事業主体：西日本鉄道株式会社</p> <p>○沿革 ・平成20年9月より運行開始 西日本鉄道株100周年記念事業の一環として、福岡市内の主要観光スポットを周遊する乗合バス「福岡シティループバス『ぐりーん』」の運行。 (平成20年9月まで西鉄観光バスが運行していた福岡定期観光バス(博多の街はやまわりコースが廃止になり、その代替の意味合いも兼ねている。))</p>
運行計画の概要	<p>○運行ルート：神戸都心エリアの主要スポットを巡回 (1周約63分)</p> <p>○運行形態：定時定路線型</p> <p>○対象者：利用制限なし(観光客がターゲット)</p> <p>○運行時間：午前9時～午後6時</p> <p>○運行本数：1日26便(10～15分間隔で運行)</p> <p>○料金：1回250円(1日乗車券650円)</p> <p>○使用車両：中型ノンステップバス (日本宝くじ協会からの助成金により寄贈)</p>	<p>○運行ルート：名古屋の中心部とその周辺の観光名所を巡回 (1周約90分)</p> <p>○運行形態：定時定路線型</p> <p>○対象者：利用制限なし(観光客がターゲット)</p> <p>○運行時間：午前9時30分～午後6時(月曜日運休)</p> <p>○運行本数：1日12便(20～30分間隔で運行)</p> <p>○料金：1回200円(1日乗車券500円)</p> <p>○使用車両：中型ノンステップバス</p>	<p>○運行ルート：博多駅を基点に、福岡・博多の様々な観光スポットを巡回(1周約80分)</p> <p>○運行形態：定時定路線型</p> <p>○対象者：利用制限なし(観光客がターゲット)</p> <p>○運行時間：午前9時～午後6時30分(土日祝のみ)</p> <p>○運行本数：1日13便(30～60分間隔で運行)</p> <p>○料金：1回250円(1日乗車券700円)</p> <p>○使用車両：中型ノンステップバス</p>
利用促進策など	<p>○車内観光ガイド 神戸市内の見どころをテープではなく、ガイドが案内。 海外からの観光客に向けては、液晶式の案内表示機器で4ヶ国語(日本語、英語、中国語、韓国語)対応。</p> <p>○神戸シティ・ループバス「学旅」 団体申し込みにより、団体旅行(班行動、グループ行動)の行動予定に応じて臨時便で対応。</p> <p>○観光スポット割引サービス シティ・ループ1日乗車券の提示で受けられる割引サービスを実施。</p> <p>○車両デザイン等 神戸に良く似合うグリーンを基調として「走る異人館」をイメージし、屋根部には2重屋根飾りを採用しレトロ感あるデザインを採用。車内は、フレームを木材で組み上げた座席と木目調の壁・仕切りを組み合わせた内装を採用。 バス停もバス車両と統一したデザイン。</p>	<p>○車内観光ガイド 土日・休日の一部の便では、ガイドボランティアによって沿線の観光ガイドが行なわれている。 液晶モニターを2台備え、停留所案内のほか観光案内動画を放映。「名古屋おもてなし武将隊」の徳川家康と陣笠隊の亀吉による放送)</p> <p>○料金割引など メーグル沿線の観光施設が利用当日に限り割引で入場が可能。さらに、沿線の飲食店やホテルでも利用当日に限り特典を受けることが可能。</p> <p>○車両デザイン等 外観塗装も名古屋城の金鯱にちなみゴールドカラーとし、車内も名古屋名所をアイコンとしてあしらった黄色の特注モケットで装飾。また、天井には名古屋の高層建築が眺められるよう天窓が配置。</p>	<p>○車内放送 車内に設置するモニターや車内アナウンスを多言語(4ヶ国語)対応し、近年増加する外国人観光客にも福岡の魅力を伝えている。</p> <p>○料金割引など ぐりーんバスを提示すると、観光施設等で入場料の割引など、各種サービスを受けることが可能。</p> <p>○車両デザイン等 バス車両のデザインは、主に鉄道車両や駅ビルなどの公共デザイン分野で活躍する水戸岡鋭治氏によるもの。外装は「ぐりーん」の名称にちなんだ緑色を基調としたカラーリングで、内装は木材を多用しているほか、一部の車両では流線型の対面式座席にするなど“バスに乗ること”そのもの楽しさを感じさせるデザインを採用している。</p>

兵庫県神戸市（シティ・ループ）

▼車両デザイン



▼車内放送



▼バス停



▼車内ガイド



▼車内



▼ルートマップ



愛知県名古屋市（なごや観光ルートバス メーグル）

▼車両デザイン



▼車内



▼ボランティアガイド



▼パンフレット置き場



▼ルートマップ



福岡県福岡市（福岡シティループレバス グリーン）

▼車両デザイン



▼車内



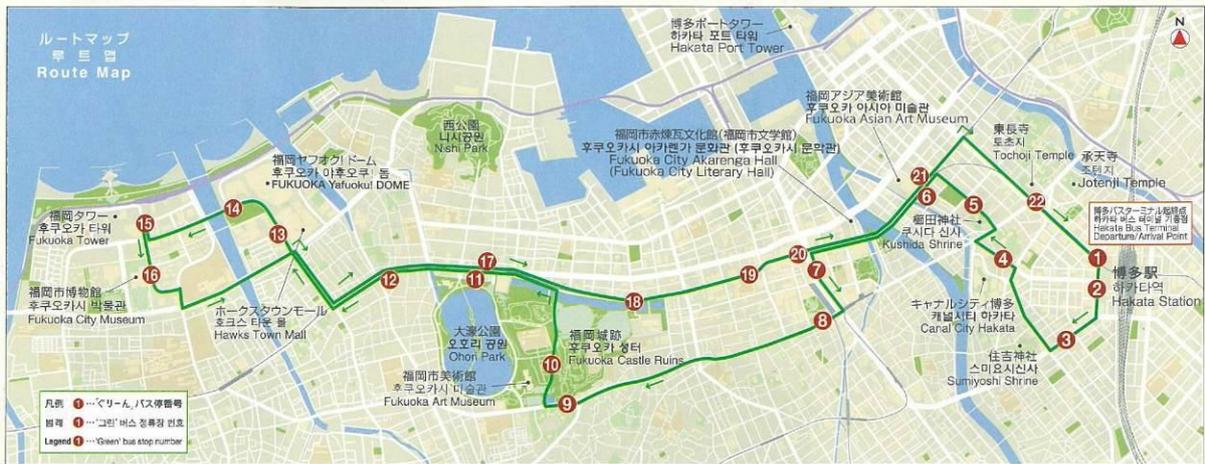
▼バス停



▼一日フリー乗車券



▼ルートマップ



バス停名 버스 정류장명 Bus Stop Name			
1 博多バスターミナル 博多バスターミナル Hakata Bus Terminal	6 博多座・福岡アジア美術館前 博多座, 福岡アジア美術館前 Hakataza Fukuoka Asia Bijutsukan-mae	11 大濠公園前 大濠公園前 Ohori Koen-mae	16 福岡市博物館・防災センター前 福岡市博物館, 防災センター前 Fukuoka City Museum-Fukuoka Bousai Center-mae
2 博多駅前A 博多駅前A Hakata-eki-mae A	7 天神コア前 天神コア前 Tenjin Core-mae	12 唐人町 唐人町 Tojin-machi	17 大濠公園前 大濠公園前 Ohori Koen-mae
3 住吉神社入口 住吉神社入口 Sumiyoshi Jinja-iriguchi	8 ホークスタウン・三越前 ホークスタウン, 三越前 Hawks Town-mae	13 平和台 平和台 Heiwadai	18 西鉄グランドホテル前 西鉄グランドホテル前 Nishitetsu Grand Hotel-mae
4 キャナルシティ博多前 キャナルシティ博多前 Canal City Hakata-mae	9 廣国神社・NHK放送センター入口 廣国神社, NHK放送センター入口 Gokoku Jinja-NHK Hoso Center-iriguchi	14 ヒルトン福岡シーホーク ヒルトン福岡シーホーク Hilton Fukuoka Sea Hawk	19 天神福徳本店前 天神福徳本店前 Tenjin Fukugin Honten-mae
5 都田神社・博多町家ふるさと館前 都田神社, 博多町家ふるさと館前 Kushida Jinja/Hakata Mochiya Furusato-kan-mae	10 福岡城址・福岡市美術館東口 福岡城址, 福岡市美術館東口 Fukuokajoshi/Fukuoka Bijutsukan Higashi-guchi	15 福岡タワー・マリゾン南口 福岡タワー, マリゾン南口 Fukuoka Tower/Marizon Minami-guchi	20 博多座・福岡アジア美術館前 博多座, 福岡アジア美術館前 Hakataza Fukuoka Asia Bijutsukan-mae
			21 博多座・福岡アジア美術館前 博多座, 福岡アジア美術館前 Hakataza Fukuoka Asia Bijutsukan-mae
			22 祇園町 祇園町 Gion-machi

8-3. ヒアリング調査記録

ヒアリング調査先一覧

調査先	施設名・組織名
県内事例	<ul style="list-style-type: none"> ・那覇市（那覇市内観光周遊バス ゆいゆい号） ・南城市（おでかけなんじい） ・沖縄市（中心市街地循環バス）
沿道事業者 （宿泊施設）	<ul style="list-style-type: none"> ・サザンビーチホテル&リゾート ・ホテル スポーツロッジ糸満
沿道事業者 （商業事業者）	<ul style="list-style-type: none"> ・うまんちゅ市場（道の駅いとまん） ・サンエーしおざきシティ
沿道事業者 （観光事業者等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ひめゆり平和祈念資料館 ・糸満観光農園
観光関連組織	<ul style="list-style-type: none"> ・糸満市観光協会 ・いちまりん/美ら島観光バス ・南部観光協会（NPO自然体験学校） ・米須自治会（まち歩きモデル） ・沖縄観光コンベンションビューロー(OCVB)
交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄都市モノレール（ゆいレール） ・琉球バス ・ときわ交通（タクシー）
旅行代理店	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社 J A L J T Aセールス ・株式会社 J T B ・沖縄ツアーリスト株式会社（O T S）

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年10月4日（月）14時00分～15時30分
 - 視察先：沖縄市観光課（那覇市内観光周遊バスゆいゆい号）
 - 対応者：（那覇市観光課）神谷 直樹 主幹
（那覇市観光協会）千住 直広、瀬底 幸江
 - 視察者：（政策推進課）喜納 正光、（株オオバ）武 米治郎、吉岡 誠
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①平成24年度から平成26年度の2ヵ年間、那覇市内の主要観光地等を廻る「那覇市内観光周遊バスゆいゆい号」の企画から実施まで携わった方にその実態を伺う。

2. 実施状況について

（1）事業の概要

- ①平成24年度は運行準備の段階、1月に那覇市観光協会と契約し、計画周知のための広告、ラッピング等を行うためバスのリース、許認可などを行った。
- ②平成25～26年度は実証実験期間、平成25年6月に運行スタート。
- ③将来的（平成27年度以降）は、バス事業者による自主運行を目指している。
- ④平成24年度予算41,633千円、平成25年度予算167,995千円。

（2）平成24年度の運行準備

- ①企画の段階では、観光周遊バスは、A 那覇市内の主要観光地を巡るルート、B 那覇空港とホテル等を巡るルート、2つのルートを企画していたが、那覇空港とホテルを巡る路線バス（19番）が既にあることから、現在の主要観光地を巡るルートとなった。
- ②企画の段階では、神戸市（シティー・ループバス）や横浜市（観光スポット周遊バスあかいくつ）、仙台市（るーぷる仙台）の観光路線バスの事例を参考にした。
- ③既存のバスルートとの重複区間について、路線バス事業者の了解を得る必要があったが調整が難航し、企画の段階から手続き等に約1年程度の時間を要した。
- ④「ゆいゆい号」の名称は、公募で募集をした。
- ⑤車両デザインは、目立つ（派手な）デザインの案もあったが、市の景観条例の趣旨から、落ち着いたデザインとなった。ラッピング等の改造費は、1台120万円程度。

（3）運行ルート、料金について

- ①これまで、バスで「首里城公園」と「敷名園」へ行こうとすると、乗り換えが必要だったため、乗り換え無しで行けるルートとした。

- ②周遊ルートは左廻りのみ。予算との関係や、コース後半の国際通りが混雑し時間がかかる場合もあるため、1方向のみとなっている。
- ③午前の便は、那覇まちま〜いガイドが乗車し、観光ガイドを行っている。午後の便は、車内放送によるガイドとなる。那覇まちま〜いガイドには、1周2000円（一日最大4000円）を支払っている。那覇まちま〜いガイドは全80人在籍している。
- ④料金は、路線バスと同一料金（1回220円、一日乗車券660円、バスモノパス1000円）。一日乗車券等は、既存のサービスを利用しており、新しく作ったものではない。
- ⑤9月から一日乗車券による施設入場割引を開始した（敷名園、玉陵、市歴史博物館、壺屋焼物博物館）。

（4）乗客の反応

- ①一日300人程度が利用。
- ②ターゲットは、レンタカーを使わない観光客、修学旅行生の個人（班別）行動、フリーの外国人旅行客、地元客（路線バスとして活用）など
- ③観光オフ期の対策でもあるため、これから利用者を伸ばしていきたい。
- ④数回予定しているアンケート調査を実施し、ルートや時間等の見直しを行っていく予定。

（5）広告・PR等

- ①平成24年度の準備段階からプロモーション活動を行っている。
 - ・県内外の旅行代理店、空港会社等に対するプロモーション
 - ・モノレール中吊り広告
 - ・配布用チラシ等の作成・配布（ポスター2,500部、チラシ60,000部、パンフレット20,000部、4ヶ国語パンフレット10,000部）
 - ・空港内の告知
 - ・JTB時刻表への掲載
 - ・マスコミ（新聞、テレビ、ラジオ）
 - ・ホテルブログ等
 - ・プロモーションDVDの作成・配布
 - ・ゆいゆい号を活用した旅行商品の開発
- ②修学旅行生を対象とした旅行商品は1年前から準備が始まるため、平成26年度に向けた営業活動を現在行っている。
- ②交通はあくまで手段であるため、「那覇まちま〜いガイド」の事業との連動など、観光商品として売り出している。
- ③観光客に認知してもらうまで、時間がかかるため、数ヶ月の実証実験期間では、観光客が認知し始めた頃にはバスが走っていない状況になる可能性がある。

(6) 契約形態

- ① (一社) 那覇市観光協会と業務委託契約を締結し、その中でバス事業者との運行契約や、バスのラッピング、那覇まちま〜いガイド、県内外旅行代理店等への PR 等を実施している。
- ② バス事業者の選定にあたっては、観光バス事業者の話もあったが、路線バス免許に時間がかかるため、路線バス事業者と契約を締結した。
- ③ 一括交付金事業という性質上、公平性の観点からプロポーザルか入札による契約が良い。

(7) アドバイス、課題等

- ① 観光客や市民に対し、どのように周知・PR していくのか、観光商品として、交通と観光の連携等。
- ② 既存路線バス会社との調整に時間がかかったため、早めに調整の場を持った方がよい。
- ③ 社会実験では、収入(運賃)と支出(運行経費)の差額が補助の対象となるため、協賛金や広告による収入分は、補助金の返還となる。しかし、社会実験後の本格導入を考えるのであれば、社会実験中から協力してもらうスキームもありえる。

以上

「糸満市那覇空港直行バス路線先進事例現地視察報告」

- 日 時：平成25年9月3日（火）10時00分～11時05分
- 視察先：南城市 企画部 政策調整課 情報政策係
- 対応者：比嘉知恵 主任主事、古謝匡之
- 視察者：（政策推進課）喜納正光、（株オオバ）武 米治郎、翁長秀樹

1. 視察先の特徴（選定理由）

- ①市民(交通弱者)及び観光客の移動手段の確保を目的に、新たな公共交通の見直しについて取り組んでいる事例。
- ②「デマンド交通」を採用して、平成25年度から実証実験に取り組んでいる事例。

2. 質問に対する回答

<動機、導入のきっかけ、導入経緯>

4町村合併による市民の移動範囲の拡大に対応するために、特に交通弱者に対する交通手段の確保が求められた。経費を押さえつつ効果を期待してデマンド交通に取り組んだ。

(1) デマンド交通を採用した理由について

- ①既存の路線バス路線が不便だが、路線の変更が困難。
- ②定時、定路線の庁舎循環バスを運営しているが、乗る人がいない。
- ③観光資源がカーナビでも探すのが困難な場所にあり、目的地までたどり着けないケースもある。

※ システムから着手するために、政策調整課情報政策係が担当することになった。

(2) 事業全体のスケジュールについて

- ・平成24年度 計画策定 委託料：約600万円（判断材料となる数値目標は、あらかじめ設定しなかった。）
- ・平成25年度 無償実証実験 11月～3月上旬、約4,000万円
- ・平成26年後 有償実証実験 できるだけ、長く実験を行いたい。2年度以降は有償とするように沖縄県から指導された。
- ・平成27年度 有償実証実験
- ・平成28年度 本格運送

※ 実験期間を3か年に分けて行うのは、料金、対象者等、条件を変更して実験を行うため。

(3) 実証実験の計画について

- ①運行時間：午前8時～午後9時（年中無休）
- ②導入エリア：市内全域（久高島は除く）

- ③対象者：65歳以上の交通弱者及び観光客（市民は登録制、観光客は登録無用）
- ④使用車両：10名乗り乗用車（レンタカー：5台）
- ⑤利用方法：事前予約（予約受付は利用の1時間前まで）
- ⑥運行形態：ドア to ドア

（4）道路運送法との関係について

今年度は、無償実証実験を行う為、道路運送法に関連はない。ただし、今年度、次年度に向けて検討を行う。

（5）これからの課題について

- ①運行主体をどうするか、まだ決まっていない。
- ②既存公共交通とのすみわけをどうするか？
- ③観光客利用の方策

（6）観光客アンケートについて

ア) 実施対象者について

対象施設を利用する観光客（県内在住も含む）

グループの場合は代表者1名、就学旅行の場合は引率の先生。

イ) 対象者への実施方法について

聞き取り調査（ヒアリング方式）

※ユインチホテル南城については、ホテルフロントにて調査票配布・回収）

回答数 304枚、粗品としてウェットティッシュをプレゼント

ウ) 実施場所と実施日等について

観光客の立ち寄りが多いと思われる施設で行った。

①おきなわワールド文化王国・玉泉洞

平成24年12月22日（土） 9:00～18:00 4名

②斎場御嶽

平成24年12月21日（金） 9:00～18:00 3名

③カフェくるくま

平成24年12月22日（土） 11:00～16:00 3名

エ) アンケート調査の課題について

回答者のほとんどがレンタカーやマイカー利用者であるためか、デマンド交通に対する関心が低かった。本来は、路線バス利用者等のデマンド交通を利用する可能性の高い観光客への調査も必要である。（路線バスを利用する観光客の絶対数が少ない）

(7) 住民アンケートについて

ア) 実施対象者及びその抽出方法について

交通弱者と思われる者を対象とした。対象者は、民生委員による判断。

イ) 対象者への実施方法について

民生委員にデマンド交通について説明し、民生委員が利用者になりそうな世帯に対し、聞き取り調査（ヒアリング方式）を行った。

(8) これからの課題について

- ①需要と供給の予測が立っていない。
- ②一括交付金の成果目標として利用者数は、65歳以上人口の10%。
- ③庁舎循環バスに掛かっている費用をデマンド交通にシフト。
- ④赤字路線の解消対策として、ルート・ダイヤの変更、バスの小型化。
- ⑤福祉事業ではないので、将来は、生活交通に引継ぎたい。

以上

「糸満市那覇空港直行バス路線先進事例現地視察報告」

- 日 時：平成25年10月4日（金）14時00分～15時00分
- 視察先：沖縄市 経済文化部 経済企画室中心市街地活性化推進課
- 対応者：比嘉賢二係長、山口かおり係員
- 視察者：（政策推進課）喜納正光、（株オオバ）武 米治郎

1. 視察先の特徴（選定理由）

- ①「中心市街地循環バス」について、平成22年6月から平成25年3月まで実証実験を行い、平成25年4月から本格運行を行っている事例。

2. 質問に対する回答

<動機、導入のきっかけ、導入経緯>

中心市街地活性化法に基づき、沖縄市中心市街地活性化基本計画を策定し、平成22年3月内閣総理大臣の認可を得て、活性化に向けた取組みとしてスタート。

中心市街地循環バス実証実験事業の目的は、中心市街地内における回遊性を向上させ、にぎわいの創出を図ること。中心市街地居住者の生活利便性の向上を図り、中心市街地の魅力を高め、まち全体としての付加価値を創出するためにも、中心市街地循環バス事業に取り組んだ。

（1）循環バス事業（実証実験）の概要について

<胡屋ルート>

- ①運行期間：平成22年6月～平成25年3月
- ②運行ルート：沖縄市役所、こどもの国、ミュージックタウン、コリンザ、運動公園など胡屋地区周辺を循環。
- ③運行時間：始発 10:00（市役所） 終着 19:05（市役所）
- ④運行間隔：1日15便運行（30分間隔）
- ⑤使用台数：1台

<コザルート>

- ①運行期間：平成24年9月～平成25年3月
- ②運行ルート：沖縄市役所、安慶田バイパス、銀天街、社会福祉センター、市民会館、一番街、サンシティ、ミュージックタウンなど胡屋地域とコザ十字路地域を結び循環。
- ③運行時間：始発 10:00（市役所） 終着 19:00（市役所）
- ④運行間隔：1日16便運行（30～40分間隔）
- ⑤使用台数：1台

(2) 中心市街地の情報発信について

循環バスの車内において、中心市街地のイベント情報や商店街の店舗情報を発信するため、チラシの設置や映像を放映したりして、イベント開催時期に合わせた車内の飾りつけ等を行い、中心市街地の魅力をPRした。

(3) 運行実績と利用者実績について

<胡屋ルート>

- ①運行日数：H22年度（263日）、H23年度（366日）、H24年度(361日)
- ②利用人数：H22年度（50,272）、H23年度（75,676）、H24年度(66,233)
- ③1日平均：H22年度（191人）、H23年度（207人）、H24年度(183人)

<コザルート>

- ①運行日数：H24年度（208日）
- ②利用人数：H24年度（39,608人）
- ③1日平均：H24年度（190人）

(4) 有料化実証実験について

胡屋ルートで、平成24年8月と9月に1回当たり一律100円（小学生以下と障害者を除く）を徴収したところ、利用者数で43%減。（H23年度同月との比較）運賃支払い対象者の割合は、全利用者の70%。

年間に置き換えた場合、運賃収入は約3,150千円見込むことができ、事業費の約4分の1を賄うことができると検証。

(5) 実証実験の総括について

- ①平成25年度から本格運行へ移行する。
- ②本格運行後、1～2年を目途に委託業務から補助事業への切替えの検討を行う。
- ③本格運行後は、5年間を目途に事業の継続化を図る。運行ルートや運行時刻については、随時見直しと改善を図り、当該事業の全体的な総括を5年後に行い、その後の継続等について検討を行うものとする。

(6) 本格運行について

ア) 業者の決定方法

それぞれのルートに入札を行った。（既存バス路線会社が落札）

イ) 使用バス車両

小型観光バスを車いす対応に改造。借上げよりも安価なため、沖縄市が5年間リース会社を通じて委託。（1台当月額35万円）

1ルートを1台で運行。

ウ) 周知方法

3年間の実証実験期間があったため、特別な広告は行わなかった。

エ) 運行時間

<胡屋ルート>

始発 9:00 (市役所) 終着 19:40 (市役所)

1日 13便運行 (40分間隔)

<コザルート>

始発 9:00 (市役所) 終着 19:20 (市役所)

1日 14便運行 (35分間隔)

(7) その他

- ① 広告収入は、民間に移した後で検討。
- ② 実証実験業務は、一括して中部観光バス会社に委託。
- ③ 福祉、定住促進施策、経済波及効果を狙った事業。
- ④ 中心市街地に住む便利さをアピール。
- ⑤ 既存バス路線との調整に難航。
- ⑥ 道路運送法第4条による申請は、約3ヶ月で許可。(事前協議有り)
- ⑦ 実証実験については、一法的に期間を定めるのではなく、利用者のニーズ等も聞きながら柔軟に対応し、比較的長いスパンで定着を図るべき。

以上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年9月27日（金）10時00分～10時50分
 - 視察先：サザンビーチホテル&リゾート
 - 対応者：吉田知可 総支配人、吉野達治 営業支配人
 - 視察者：（政策推進課）喜納正光、（株オオバ）武 米治郎
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①美々ビーチの利用者の多くは、当ホテルの宿泊客と判断し、アンケート調査及び実証実験に対し協力の依頼を兼ねて、ホテル利用者の動向について伺う。
- ②シャトルバス南風号の運行について主体的に取り組んでいるので、その実態を伺う。

2. アンケート調査について

（1）協力いただける内容

- ①フロントで渡し、フロントで回収。（客室において置く方法は、回収率が下がる。）
 - ②回収の際に粗品を渡す。（粗品の内容は、最初から表示しないほうがベター。）
- ※ まもなくオフシーズンに入るので、調査は早めに行なったほうが良い。
・・・10月10日頃から10月28日頃まで実施予定。

3. ビーチシャトルバス南風号について

（1）今年の実施状況

- ・7月20日（土）から9月1日（日）の44日間実施した
- ・乗客が集中する便と乗っていない便との差が大きかった。
- ・バスの効果で客が増えたかどうかは判断できない。
- ・ホテルもバス会社も負担に感じている。来年の予定は白紙。
- ・バス停の位置は、必ずしも全てのホテルの玄関前に置くことは出来なかった。
- ・国の指導により「無料」「ホテルシャトルバス」の言葉が使えなかった

4. 糸満市那覇空港直行バス路線の実証実験について

（1）協力いただける内容

- ①バス停の場所：玄関近くの敷地内とすることはOK。
（降りる場所と乗る場所は、同じにしたほうが良い。）
- ②PR活動：旅行社に対してPRする。
- ③バス利用者へのサービス：ホテル内の飲食の割引（例えば10%）

（2）ホテル事業者から見た意見

<観光客にとって公共交通の充実を必要とする理由>

- ①運転免許証を持たない方が増える傾向にある。若者においても免許取得率が下がってきている。
- ②那覇空港に着いてからレンタカーに乗って出発するまでに2時間程度を要する。混雑状況によっては、2時間半掛かる。
- ③料金はなるべく抑えるべき。例えば3～4人のグループ又は家族の場合、タクシーとすぐに比較する。30分とか1時間待って乗るのは、バスのほうが安いと思うからだ。

＜市民にとって公共交通の充実を必要とする理由＞

- ①工場団地の企業で働く従業員の需要もかなり見込むことができると思う。現在、駐車場があふれそうな状況。

以上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年9月27日（金）11時30分～11時50分
 - 視察先：ホテル スポーツロジ糸満
 - 対応者：豊里俊雄 支配人
 - 視察者：（政策推進課）喜納正光、（株オオバ）武 米治郎
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①アンケート調査及び実証実験に対し協力の依頼を兼ねて、ホテル利用者の動向について伺う。

2. アンケート調査について

（1）協力いただける内容

- ①フロントで渡し、フロントで回収。

※ まもなくオフシーズンに入るので、調査は早めに行なったほうが良い。

・・・10月10日頃から10月28日頃まで実施予定。

3. 糸満市那覇空港直行バス路線の実証実験について

（1）協力いただける内容

パンフレットを置く等、費用の掛からないサービスは協力を行いたい。ただし、費用の発生することについては難しい。バス利用者に対するサービス等は、ランチタイムにドリンクサービス等で既に行なっている。新たにサービスを行う予定はない。

（2）ホテル事業者から見た意見

<観光客にとって公共交通に求めるもの>

- ①料金はなるべく抑えるべき。例えば3～4人のグループ又は家族の場合、タクシー代と比べてあまり変わらなくなる。

現在の状況としては、電話で当ホテルへのアクセスを聞かれた場合、赤嶺駅までゆいレールを利用して、そこからタクシーを利用するように案内している。

（3）その他

スポーツロジ利用者は、夏季はほとんど県内客であり、車を利用している。夏以外はスポーツ合宿が多く、貸切バスが多い。那覇空港直行バスの恩恵はあまり感じられない。

以上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年10月9日（水）
 - 視察先：道の駅いとまん うまんちゅ市場
 - 対応者：(JA おきなわ) 金城 和弘 副店長
 - 視察者：(政策推進課) 喜納 正光、(株オオバ) 武 米治郎、吉岡 誠
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①実証実験との連携や観光客に対する割引サービス等の可能性について

2. 実施状況について

（1）事業の概要

- ①買物客の4割が市内、1割が県外から訪れている（シーズンにもよる）。
- ②道の駅からバス停が遠く、路線バスで訪れる買物客は、ほとんどいない。
- ③店舗の売上は、昨年比5～10%アップしている。
- ④安全性、生産者の顔が見える等、通常のスーパーとは違いを出している。
- ⑤マンゴーや沖縄野菜が売れ筋の商品。

（2）那覇空港直行路線の影響

- ①三和地区からの買物客は増える可能性がある。
- ②県外観光客はレンタカーで訪れる場合が多く、路線バスに乗ってくれるかが課題。

（3）荷物の預かりサービス

- ①ファーマーズマーケットのチラシや、横断幕の一部に実証実験 PR を掲載することは可能。
- ②路線バス利用者に対する商品の割引等のサービスは、数を限定するのであれば、協力できる可能性はある。

以上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年10月9日（水）
 - 視察先：サンエーしおぎきシティ
 - 対応者：（株サンエー） 仲里 秀康 総合店長
 - 視察者：（政策推進課） 喜納 正光、（株オオバ） 武 米治郎、吉岡 誠
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①しおぎきシティを中継ポイントとした、実証実験との連携の可能性を探るため

2. ヒアリング内容

（1）買物客の特性

- ①大きな駐車場があり、路線バスで訪れる買物客はいない。マイカーかタクシーで訪れる買物客が多い。
- ②糸満市、八重瀬町、豊見城市からの買物客が殆ど。
- ③西崎地区は、「にしぎき食品館」という店舗があり、食料品の買物は可能。
- ④買物客の滞在時間は、2～3時間程度。食料品のみであれば、1時間以内。平日よりも土日の方が、買物客は多い。

（2）実証実験との連携

- ①駐車場は通路が狭いため、バス等の車両乗り入れは出来ない。
- ②サンエーのチラシは、しおぎきシティ店だけでなく、全体のチラシのため、実証実験のPRを掲載することは難しい。
- ③バス利用者に対する商品割引等のサービスは、会社と相談が必要。

以上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年10月10日（木）
 - 視察先：ひめゆり平和祈念資料館
 - 対応者：（：ひめゆり平和祈念資料館）諸見 徳一 総務課長
 - 視察者：（政策推進課）喜納 正光、（株オオバ）武 米治郎、吉岡 誠
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①実証実験との連携や観光客に対する割引サービス等の可能性について

2. 施設利用者の状況

- ①近年、ひめゆり平和祈念資料館の入館者は、減少傾向にある。
- ②10月、11月は修学旅行生が多い。8月、9月、年末は個人の来館者が多い。
- ③来館時間は、修学旅行生は30分程度。じっくり見られる方は、1時間から2時間程度。
- ④外国人の来館者も多く、最低限の言語として、英語は必要と感じる。

3. 連携の可能性

- ①これまで研究発表やWEBによる広報活動を行ってきたが、外部講和が難しくなったことから、今年度から広告を出すことにしている（11月からモノレールの中吊り広告を予定。その他、空港やホテルにもパンフレットを置く予定）。
- ②社会実験が始まれば、ひめゆり平和祈念資料館への交通手段として、広告やホームページ等に掲載したい。
- ③バス利用者に対して、入館料の割引は可能。

以上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年10月9日（水）
 - 視察先：糸満観光農園
 - 対応者：（糸満観光農園株）玉城 樹 代表取締役専務
 - 視察者：（政策推進課）喜納 正光、（株オオバ）武 米治郎、吉岡 誠
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①実証実験との連携や観光客に対する割引サービス等の可能性について

2. 実施状況について

（1）事業の概要

- ①食品関連企業に対し、ピューレを製造が主な事業になっている。
- ②ワインの製造・販売を行っているが、ワインの製造を年中行っているわけ
無いため、観光客に見せることが出来ない。
- ③体験プログラム等は、現在行っていない。
- ④グランドゴルフ（1 ゲーム 18 ホール 450 円、用具レンタル 100 円）の利用
者が多い。
- ⑤利用者の多くは県内客。県外からの観光客は少ない。
- ⑥県外の特産品イベントに参加したり、お土産に適した小型ワインの販売等に
取り組んでいる。

（2）連携の可能性

- ①現在、観光バスが入り口まで乗り入れてきており、バス車両の乗入れに問題
はない。
- ②実証実験を予定している夏場は、農作物が少ない。秋以降であれば、畑を見
せることは可能。
- ③ワインの試飲を行っており、グラスワインを販売することも可能と考えてい
- ④パークゴルフの HALF コースや、マウンテンバイクのコースであれば、1 時
間程度で出来るので、路線バス利用者に良いかもしれない。
- ⑤場所は貸し出しできるので、イベントを実施してもらえればと考えている。

以上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年10月4日（金）
 - 視察先：糸満市観光協会（あ・るっく糸満）
 - 対応者：（糸満市観光協会）上仲 誠一 事務局長
 - 視察者：（政策推進課）喜納 正光、（株オオバ）武 米治郎、吉岡 誠
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①「あ・るっく糸満」事業との連携の可能性
- ②荷物預かりサービス等の可能性

2. 実施状況について

（1）事業の概要

- ①「あ・るっく糸満」は、観光ガイドと糸満のまちをあるく事業で、現在は A 字糸満コース、B 字大里コース、C 字兼城コース、D 字真栄里コースの 4 コースがある。前日午前中までの予約制、所要時間は 2 時間以内。
- ②参加者は、平成 24 年度が 10 ヶ月間で 109 人、平成 25 年度は半年間で約 90 人と増加傾向にある。
- ③路線バス（89 番）で訪れる観光客も、人数は少ないが増えている。

（2）「あ・るっく糸満」との連携

- ①A 字糸満コース（糸満漁港集合）は運行ルートに近いので、バスで来た観光客を案内することは可能。
- ②ガイドのメンバーからは、ガイドをもっとやりたいとの声がある。
- ③ガイドが出来る人員が少ないため、大勢の観光客への対応は難しい。

（3）荷物の預かりサービス

- ①現在の糸満市観光協会は、物理的なスペースが無く、荷物を預かることは困難。
- ②今年度、道の駅構内に防災センターが建設予定。建設後はその建物に観光協会が移転する予定のため、スペースが出来れば荷物を預かることは出来ると思われる。また、コインロッカーが設置される話もある。

（4）その他

- ①道の駅の広場を格安で貸し出すことで、イベントと那覇空港直行路線との連携は可能と思われる。
- ②実証実験に対し主体的な立場で携わることは、人員が少なく現時点では困難。

以上

あ・るっく糸満資料

糸満まちあるき

ガイドと
あるく

あ・るっく糸満

A LOOK ITOMAN

4コース
各コース2時間以内

旧暦文化で生きる海人のまち糸満を歩こう

世界遺産になりたいな～南山城跡

字糸満コース



集合場所
糸満漁協

集合日時
毎週土曜日
10時

字大里コース



集合場所
大里公民館

集合日時
毎週日曜日
10時

古い石垣文化 築130年の古民家をたずねて

旧8月16日大綱引きに燃えるまち

字兼城コース



集合場所
兼城コミュニティーセンター

集合日時
毎週土曜日
16時

字真栄里コース



集合場所
糸満市立中央図書館駐車場

集合日時
毎週日曜日
16時

参加料金 お1人様 **¥1,000** (2名から催行します 参加料金は、当日、ガイドにお支払い下さい)

予約は前日午前中までに**糸満市観光協会**まで

電話:098-840-3100

FAX:098-840-3121

※各コースとも、実施日の前日、午前中までに予約をお願いします。

※各コース1回10名で受付を締め切らせていただきます。

※出発時間の10分前には、集合場所へお集り下さい。

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年10月7日（月）14時00分～14時50分
 - 視察先：いちまりん（ビーチシャトルバス南風号）
 - 対応者：屋良朝仁 代表取締役、前門 悟（美ら島観光バス専務取締役）
 - 視察者：（政策推進課）喜納正光、（株オオバ）武 米治郎
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①平成25年7月20日（土）から9月1日（日）の44日間、国際通り及び那覇空港と6カ所のホテルと2ヶ所のビーチを廻る「ビーチシャトルバス南風号」の企画から実施まで携わった方にその実態を伺う。

2. 実施状況について

（1）運行計画の決め方

- ①ルート：参加ホテルと利用者の利便に絞り込んだ。サザンビーチホテルから玉泉洞までのルートも検討したが、時間ロスを排除するために廻る施設を絞った。路線バスのバス停を使うことはできなかった。
- ②ダイヤ：人件費と燃料代程度のコストしか見込むことができなかった。1台のバスを2人の運転手で1日5便を運行。
- ③使用バス：定員45名の大型観光バス。定員を超えた人数は乗せないで、全員着席とした。
- ④料 金：無料（ホテルからの協賛金で運営）
- ⑤周知方法：ホテルのホームページやエージェント会社による広告が主で、海外からの客に対しても想定した。

（2）乗客の反応

- ①44日間の乗客総数は、3,364人。
- ②評判は上々。糸満市内で乗ってみたかったという乗客もいた。
- ③海外からの観光客が増加しており、特に台湾、香港、韓国からの個人客が増えている。
- ④海外からの観光客は、レンタカーよりも公共交通を望んでいる。
- ⑤費用対効果を判断することまでの調査分析は行っていない。

（3）各事業者から見た意見

<観光客にとって公共交通の充実を必要とする理由>

- ①海外からの観光客が増加しており、リピータや個人客の多種多様な要求(期待)に対して移動手段を増やすことは、観光施設及び飲食店等、地元とっても経済効果が期待できる。
- ②団体客では、地元は潤わないので、少人数の個人客をターゲットにすべき。

<市民にとって公共交通の充実を必要とする理由>

- ① レンタカー利用者だけではなく、定期観光バスの需要も伸びているので、公共交通によって観光地を訪れたい要望は増える。観光客が増えれば、興味を持った市民も利用する。

(4) 次年度の運行計画について

- ① 企画は行う。ホテル業者の協賛金が集まれば運行予定
- ② 時期は夏休みを予定、その時期は貸切バスに余裕があり、また観光客の需要が見込める。

(5) 糸満市の実証実験（8月～11月）について

私たちが、計画、実践してきたことで行政が事業化してくれたことは嬉しい。私達が運行する場合、実証実験と時期が重なるがバス利用者の観点から考えると選択肢が多い方が便利になるので競合してもよい。

※) 糸満市担当より

時期的な競合は、お互いお客を奪い合う事になる。次年度はプロポーザル方式で事業者を決定するので、経験を生かして応募して欲しい旨を伝える。

ビーチシャトルバス南風号資料

南部の海へLet's GO!!

ビーチシャトルバス南風号

みなみかぜ

運行期間：2013年7月20日(土)～9月1日(日)の44日間

● 国際通り

● 那覇空港

サザンビーチホテル／美タビーチ
ホテルグランビュール／ガーデン沖繩
豊崎美らSUNビーチ／ホテルグランビュール沖繩
メルキュールホテル沖繩那覇
ホテルココアアハ／ホテルニューおきなわ

南風号 運行表

南風号 運行表	1便	2便	3便	4便	5便
① サザンビーチホテル／美タビーチ	8:30	10:35	16:30	18:45	21:00
② ホテルグランビュール／ガーデン沖繩	8:40	10:50	16:45	19:00	21:15
③ 豊崎美らSUNビーチ	8:45	10:55	16:50	19:05	—
④ ホテルグランビュール沖繩	8:55	11:05	17:05	19:20	21:25
⑤ 那覇空港国内線(ムジジバス12番乗場)	9:05	11:15	17:15	19:30	21:35
⑥ メルキュールホテル沖繩那覇	9:20	11:30	17:30	19:45	21:50
⑦ 国際通り入口(ニッポンレンタカー前) ホテルココアアハ／ホテルニューおきなわ	9:30	11:40	17:40	19:55	22:00
⑧ 那覇空港国内線(ムジジバス12番乗場)	9:45	11:55	17:55	20:10	—
⑨ ホテルグランビュール沖繩	9:55	12:05	18:05	20:20	22:10
⑩ 豊崎美らSUNビーチ	10:05	12:15	18:15	20:30	—
⑪ ホテルグランビュール／ガーデン沖繩	10:10	12:20	18:20	20:35	22:20
⑫ サザンビーチホテル／美タビーチ	10:25	12:35	18:35	20:50	22:35

※満席の場合、ご利用できない場合がございます。予めご了承ください。

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年10月9日（水）
 - 視察先：沖縄南部広域観光協会
 - 対応者：（NPO 法人自然体験学校）若林 伸一 理事長
 - 視察者：（政策推進課）喜納 正光、（株オオバ）武 米治郎、吉岡 誠
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①南部地域の民間事業者との連携の方法や、実証実験に向けた留意点等を確認

2. 実施状況について

（1）過去の実績等について

- ①沖縄県から委託を受け、まち歩きとセットのバスツアーを行っている。3ヶ月間で5,000件の予約がある。
- ②南部地域の観光事業者と連携し、クーポンブックの発行等も行っている。

（2）南部地域の連携に向けたアドバイス

- ①目的やターゲットを明確にする必要がある。
- ②那覇空港の観光客をターゲットにするのであれば、荷物の問題を解決する必要がある。道の駅で荷物を預かることが出来るのであれば、路線バスも道の駅で荷物を預ける時間をダイヤに組み込むなどが必要。
- ③観光客の多くは、最終日は夕方の飛行機を予約する傾向にある。最終日で国際通り以外の過ごし方を提案できれば、糸満市に訪れる可能性はある。
- ④沖縄のリピーター観光客を対象にした、コアな観光資源を調査してPRすることが重要。例えば、八重瀬町はシーサー発祥の地であり、第1号のシーサーが現存している。これを見に来る観光客もいる。
- ④レンタカーより、路線バスが得であることをどう演出するか。民間観光事業者とも連携して、割引クーポンブックの発行等でお得感を出す必要がある。
- ⑤PR方法は、雑誌以外にも、旅フェアやエコプロダクツ等のイベントで、PRする方法もある。

以上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年10月10日（木）
 - 視察先：米須自治会
 - 対応者：（米須自治会）山城 茂 会長
 - 視察者：（政策推進課）喜納 正光、（株オオバ）武 米治郎、吉岡 誠
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①実証実験と米須まるごと生活博物館事業との連携可能性について

2. 実施状況について

（1）事業の概要

- ①地域の歴史や文化を観光客に案内しているが、食事の準備があるため、1週間前には予約をして頂いている。（一人2,200円）
- ②第6回タイムス地域貢献賞を受けるなど、認知度は高まってきている。

（2）連携の可能性

- ①前日の予約では対応が難しいため、準備をどうするか検討する必要がある。
- ②最低3人から案内しており、10人以上が最も案内し易い。上限は30人、それ以上になると体制が整わない。
- ③例えば、案内のプログラムを見直したり、時間や曜日を限定して案内するなど、実証実験の内容と併せて事業内容を考える必要がある。
- ④案内する知識の共有など、ガイドの育成を進める必要がある。

以上

米須村丸ごと生活博物館事業資料



米須の歩んできた道と未来づくり

米須は、糸満市の南端にあり、太平洋を見渡す南向きのなだらかな斜面に位置します。現在の米須の人口(2011年12月末時点)は1,253人(男642人、女611人)です。この村の歴史をたどりますと昔から今につながるものがあります。

数万年前にサンゴ礁が隆起して出来た琉球石灰岩は、大地となり石灰岩は米須グスクの石積みや屋敷の石垣となりました。また、地下にある石灰岩層は、今日では雨水を蓄える地下ダムとして利用されています。

村の人がいつも見ている太平洋は、常に新たな出来事が到来する場でありました。大昔には、イノーを目の前にして人が住みついていた痕跡が米須貝塚に見られます。琉球王府の末期の頃には大度の浜にジョン・万次郎が上陸し江戸幕府に送られました。以後日本の開国が急速に進んでいきました。1945年には、沖繩戦が始まり、人々にとって幸福を運んできた海は、逆に大きな災いを運んできました。米須をはじめとした糸満一帯では、たくさんの戦没者ができました。米須においては、全人口の約5割が戦没し、全戸数の約2.5割が一家全滅となる悲惨な歴史を背負ってきました。

戦後は、遺骨収集と慰霊塔の建立に始まり、農業の復興と村の組織づくりに力が注がれました。その努力の結果が婦人会や青年会の活動となり、戦後の混乱期を助けあいでもって乗りきってきました。その気持ちを久場のマチヤ小のタンメーは琉歌に表しました。

親兄弟親類和睦しち、近所や人々とも、この世の楽しみ、しち暮らし

米須の土地は鳥尻マージヤカニク地と呼ばれる水持ちの悪い土壌で干害を受けやすく、水の確保に苦労してきました。米須の人々は、昔から湧水地を大切に敬ってきました。戦後は簡易水道が出来、今日では、上水道が完備され飲料水を確保する苦労から解放されました。また、2005年の地下ダムの完成により農業用水を確保することが出来これから農業生産を高めていく事が期待されています。

村の人々の暮らしは、以前に比べると豊かになりましたが、近年は、少子高齢化やコミュニティー力の低下が見られるようになりました。そのような課題を受けて米須の元気な未来をつくる事を目的とし、農村地域再生発見事業に取り組みました。2010年に米須農村再生発見事業世話役会が結成され、環境協定班、マップづくり班、生活学芸員班、おもてなし班、集落美化班、生活感幸班を組織し活動しています。活動の原点は村の歴史・文化を大事にする「ある物さがし」による村活性化のビジョンづくりです。その全体像を「米須村丸ごと生活博物館」としました。村丸ごと生活博物館というのは、美しく、楽しく、睦ましい日々の暮らしを米須の人々が感じるとともに来訪者にもその気持ち良さを感じてもらう村づくりを意味しています。それを「生活感幸」と掲げ、米須の未来づくりに向けて私たちは取り組んでいきます。

米須地区環境協定書(概要)

米須自治会長と私たち区民は、米須のいい自然を守り伝え、共に生きる暮らしづくりを進め、米須の環境をよりよくしていくため、下記事項について遵守する事に努めます。

1. 水をきれいにしていきます。
2. 出来るだけゴミを出さない暮らしをします。
3. 自然と共に生きる暮らしを大切にしていきます。
4. 農薬や化学肥料は出来るだけ減らします。
5. 散歩の際、犬などのペットのフンは必ず持って帰ります。
6. 空地などに花を植え「米須花いっぱい運動」を推進します。
7. EMなどの有用微生物群を活用し、環境浄化に努めます。
8. あいさつは人が生活していく上での基本であり、みんなで挨拶の励行に努めます。

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年11月26日（木）16時50分～17時30分
 - 視察先：沖縄観光コンベンションビューロー
 - 対応者：那覇空港観光案内所 當眞 さとみコーディネータ
 - 視察者：（政策推進課）喜納正光、（株オオバ）武 米治郎
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①那覇空港到着ロビーの案内所に勤務している方に直接、観光客の動向について意見等を伺う。

2. 路線バスの商品化について

（1）実証実験することや路線に対する意見

- ①実施する時期は、繁忙期になる5月からスタートした方が良い。
- ②使用する車両は、15名程度の小型バスとし、本数は30分おきで運行した方が案内しやすい。
- ③観光スポット以外のルートは省き、速達性を向上させた方が利用しやすい。喜屋武岬を加えることを検討して欲しい。

（2）PRのポイント

- ①「糸満まちまーい」とバス乗車券をセットで販売。お得感をアピールするために、入場料割引券を付ける等、各種の割引券を検討する。
- ②空港内の看板や案内所を活用する。
- ③車両はノンステップバスとし、「ゆるキャラ “いとちゃん”」「糸満ハーリー」「綱引き」を描いたラッピングを施す。
- ④OCVBのホームページで、多言語及び動画で紹介する。
- ⑤GPSのオーディオガイド（日・英・中・韓）を貸出す。
- ⑥車内又は観光地で、ボランティアガイドを常勤させる。
- ⑦ブログを読んでいる人が多くなっているため、外国のブロガーにPRを依頼する。

3. 問合せの内容について

（1）問合せ内容から見た外国人観光客の動向

- ①国際免許証を持っていない方も来沖され、バスに対する問合せは、日本人の年配者の次に多い。
- ②LCCを利用して訪れ、案内所に来る個人旅行者が増えつつあり、問合せ場所は、斎場御嶽、玉泉洞（おきなわワールド）、ひめゆり塔の順。
- ③観光客の視線では、スポーツロッジ糸満、西崎運動公園、南部病院は不要。

(2) アクセスに関する問合せ

- ① アウトレットモールあしびなーが最多で、他は平和祈念公園、ひめゆりの塔、豊崎ちゅら SUN ビーチ、サザンビーチホテル等。
- ② 案内所に訪れる人は、到着日よりも出発日の方が多い。中でも、帰る便まで時間があるので、3時間程度で行ける場所の問合せが多い。

(3) 案内するうえで心掛けていること

- ① 交通が不便な場所は、案内しづらいので避ける。
- ② 所要時間が正確でないとお薦めしない。

以上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年11月26日（木）17時50分～18時30分
- 視察先：沖縄観光コンベンションビューロー
- 対応者：海外事業部海外プロモーション課 玉城 扇 課長
- 視察者：（政策推進課）喜納正光、（株オオバ）武 米治郎

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①外国人観光客の動向について意見等を伺う。

2. 路線バスの商品化について

（1）実証実験することや路線に対する意見

- ①外国人の場合、着地型商品にあまり興味を示さない。もし、示すとしたら、ダイビング系かホエールウォッチングに限られる。
- ②外国人観光客は、なかなか路線バスには乗らない。レンタカー利用率は伸びている傾向。外国人をメインターゲットにするのではなく、乗降客の幅を広げる対策の一環として、外国人も対応すると考えた方が良い。
- ③沖縄を訪れる人数は、日本人：外国人＝300万人：50万人が見込まれているので、やはり日本人をメインに検討するべき。
- ④一口に外国といっても、国によって行動パターンがまるっきり異なるので、国を絞り込むべき。中国人は、戦争関連の場所を避ける。
- ⑤サザンビーチホテルは、年間を通じて利用されているので、ある程度乗降客を見込むことができる。

（2）PRのポイント

- ①PR媒体は、出発する前の者を対象にする場合と到着してからの者を対象にする場合では違う。いずれにしても、フェイスブック等を見ながら観光しているケースが増えているので、ブログを活用することが効果的。
- ②沖縄県やOCVBを始め、旅行社及び観光施設等のホームページにバナーを設ける。
- ③ガイドブックや旅行雑誌等の紀行欄に記事として載せる。OCVBの海外事務所は、依頼があれば協力する。
- ④レンタカーは、借りるまでの時間がかかり過ぎるので、バス路線の手軽さを売り物にできないか検討すると良い。
- ⑤PRは、早い段階から始め、宣伝期間を長く取るべき。

3. 外国人観光客満足度調査について

（1）平成24年度外国人観光客満足度調査報告書（抜粋）

- ①国籍別回答者数 2,328人中、台湾(28.2%)、香港(26.4%)、中国(20.1%)、韓

国(15.7%)の4か国で、9割以上を占める。

- ②年代別構成比は、全ての国籍で20代、30代が6割を占め、主要4か国全てで30代が最も多い。10代及び60代以上は、比率としては非常に低い。
- ③旅行形態としては、台湾は「観光付きツアー」が約半数を占め、韓国は「個人旅行」が約半数を占める。また、中国マルチビザ利用者と香港の約3割が「フリープラン」を利用している。
- ④「個人旅行」や「フリープラン」が利用する交通手段としては、レンタカーの利用率が最も高く、路線バスは、タクシー(約17%)より低い9%程度の利用率。
- ⑤観光の決め手となった情報源としては、香港と韓国以外では、「友人・親戚の薦め」の割合が最も高く、韓国では、「ブログ、SNS、Twitter」(43.6%)や「宿泊予約サイト」(25.2%)を利用する割合が他の国籍を大きく上回っており、インターネットを媒体とした情報収集する旅行者が多い。
- ⑥旅行中に役立った情報源としては、「フリーペーパー」が最も多く、次に「ツアーガイド」と「インターネット」が僅差が続いている。
- ⑦旅行中の交通機関に対して満足度している点は、モノレールやレンタカーの便利さが挙げられている。また、モノレールや路線バスの定刻通りの正確さを上げる一方で、バスの料金が高い、運行本数が少ない、渋滞がひどいといった不満の声が聞かれる。特に韓国と米国に不満の割合が高い傾向にある。

以上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年10月10日（木）
 - 視察先：沖縄都市モノレール株式会社
 - 対応者：（沖縄都市モノレール） 総務部 営業企画課 上原 悟 課長
西崎 知浩 係長、外間 章悟 広報担当
 - 視察者：（政策推進課）喜納 正光、（株オオバ）武 米治郎、吉岡 誠
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①糸満市那覇空港直行バスとの連携の可能性について意見等を伺う。

2. 糸満市那覇空港直行バスとの連携の可能性

- ①「バスモノパス（1,000円）」を利用することで、沖縄都市モノレール全線と那覇バス市内均一区間（市外線も区間内なら利用可能）を自由に乗り降りする事が可能。
- ②那覇市のゆいゆい号は、既にあった「バスモノパス」を利用したのであり、社会実験のために新しくサービスを始めたわけではない。
- ③国への手続き等の関係もあり、糸満市那覇空港直行バスの社会実験にあたって、乗り継ぎ割引等のサービスを行うのは現時点では難しい。

3. 運行ルート等について

- ①赤嶺駅まで車で送り迎えをし、モノレールに乗継をされる利用者も多い。糸満市那覇空港直行バスのバス停を赤嶺駅に設置すれば、モノレールとの相乗効果もあると考える。
- ②那覇空港までバスで行き、モノレールに乗換て、那覇市街地に行くのは、心理的に抵抗感があるのではないか。
- ③通勤通学を考慮したダイヤにするのであれば、夕方の運行間隔は30分に1本は必要。
- ④旅行者を対象にするのであれば、半日程度の空き時間が無ければ、糸満市まで来て頂けないでは。3～4時間の空き時間では難しいと感じる。

4. 広告等について

- ①ゆいれーの駅や車内で、有料で広告を出すことは可能。
- ②那覇空港駅から空港までの通路で、横断幕広告（20万/月）のスペースがあり、公共性が高い組織等を優先しているため、空港からの乗継を考慮するのであれば、お勧めしたい。

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年10月9日（水）
 - 視察先：琉球バス
 - 対応者：（琉球バス）真栄城 朝雄 部長、小橋川 共隆 課長代理
 - 視察者：（政策推進課）喜納 正光、（株オオバ）武 米治郎、吉岡 誠
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①路線バス事業者として、実証実験に向けた留意点等を確認

2. 実施状況について

（1）実証実験における中継ポイントについて

- ①実証実験において、道の駅いとまんを中継ポイントとして位置付け、折り返す場合と中継ポイントは設けずそのまま終点まで運行する場合、のメリット・デメリットは以下が考えられる。

【メリット】

- ・滞在時間が増加することで店舗売上の増加が見込まれる。
- ・道の駅の目的としたバス利用者の増加が見込まれる。
- ・路線を分けることで定時性を確保し易くなる。

【デメリット】

- ・乗り継ぎすることで料金が割高になってしまう。
（乗継券の発行も可能だが、利用者が大勢の場合は負担が大きくなる）
- ・乗り継ぎを考慮したダイヤとなるため、時間がかかってしまう。

（2）バス停の場所等の決め方について

- ①バス停の具体の位置決定は、道路管理者との協議が必要となる。
- ②申請手続き等は、運行するバス事業者からの申請になると考えられる。
- ③実証実験のバスと既存の路線バスのダイヤが、重ならないよう調整が必要。
- ④路線が重複する82番は、不採算路線のため、八重瀬町との協議が必要。
- ⑤ゆいれーる赤嶺駅との乗り継ぎも考えられるが、糸満方面から赤嶺交差点が渋滞するため、那覇空港駅に直接向かって時間もそれほど変わらないと考えられる。

（3）料金設定について

- ①料金設定は、既存路線バスとの整合を図る必要があるため、距離制が基本となると考えられる。
- ②フリー乗車券として、土日祝1日限定乗車券（琉球バス・那覇バス）琉球バス交通と那覇バスの路線バスが1日乗り放題（大人2000円・小人1000円）があるため、実証実験においても利用可能と考えられる。

③実証実験路線に限定したフリー乗車券は、他の路線と競合しないのであれば実現の可能性はある。

(4) 実証実験の実施にあたって PR 方法（期間、媒体など）について

- ①那覇空港の観光案内所との連携
- ②フリー乗車券を利用したスタンプラリー等、観光客が楽しめる仕組み
- ③西崎地区の住民が路線バスを利用してくれるようする必要がある

(5) 那覇バス 95 番（那覇空港～沖縄アウトレットモールあしびなー）の利用状況や路線の定時制等について

- ①渋滞（夏場のレンタカー増加等）により、ダイヤが遅れるケースもあった。
- ②不採算路線となっている。
- ③有料化により利用者が大きく減少すると考えられたが、想定したほど利用者は減っていない。

以上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成26年3月1日（土）
 - 視察先：ときわ交通合資会社
 - 対応者：（ときわ交通合資会社）金城 哲 運行責任者
 - 視察者：（株オオバ）武 米治郎
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①タクシー事業者として、基幹路線としての機能を持った糸満市那覇空港直行バス路線と細街路まで客を運ぶタクシーとの共存共栄方策に対する意見等を伺う。

2. 糸満市内界隈のタクシーの状況について

- ①糸満市内界隈にタクシーは、3社（ときわ交通、共和交通、ラッキー交通）で約60台が常時流している。路線バスの空白地域は、タクシーでカバーしている。
- ②タクシー利用者の乗車距離は、大半が3km未満。（約700円程度まで）
- ③「道の駅いとまん」にラッキー交通が内線電話を設置している。

3. 直行バスとの相乗効果について

（1）ポイントとなるバス停にタクシーベイを設置する事について

- ①西崎運動公園前あたりから南部病院前あたりであれば、5～10分程度で配車できるので、わざわざ待機していなくても良い。タクシーベイは不要。
- ②設備に費用も掛かり、効果的ではない。「道の駅いとまん」の内線電話も、頻度があるとは思えない。

（2）乗継客を増やす方策について

- ①直行バスからタクシー、タクシーから直行バスに乗換える専用の、より割引された回数券を発行する。
- ②毎朝6時30分頃、那覇方面に向かう車両で混んでいるので、直行バスに通勤・通学客を乗せる工夫があると良い。

（3）その他気付いたこと

- ①那覇空港だけでなく、那覇市内への利用者の事を考えれば、赤嶺駅との接続は必要。

以上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年11月6日（水）13時00分～14時20分
 - 視察先：株式会社JAL JTAセールス
 - 対応者：旅行事業部 商品企画第2グループ 玉城 豊 グループ長
伊集朝也アシスタントマネージャー
 - 視察者：（政策推進課）喜納正光、（株オオバ）武 米治郎、吉岡 誠
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①着地型商品に"路線バスの商品化"を加えることの可能性と、バス路線の乗降客を増やすための方策について、ツアーリストとしての意見等について伺う。

2. 路線バスの商品化について

（1）現在のJTAの取組み

- ①“ゆいゆい号”に久米島で実績のある“トレジャーハンター号”の要素を取り入れる商品を開発中。専用用紙に、3か所のポイントで見つけた文字を書き込んで提出することで、記念品と交換できる仕組み。
- ②“ゆいゆいハンター号”として成立すれば、全国に向けてセールスを予定。
- ③宮古島で、ワークショップ方式にてテーマ性を持った企画を展開させた事例がある。

（2）乗降客を増やす方策（アピールポイント）

- ①“あしびな”は、観光客にとって注目のポイントなので、路線に組入れることを検討すべき。
- ②“糸満まちあるき”とセットにして売り出すことで、効果が期待できる。他にも、沿線の施設で利用できるクーポン券を発行することも検討すべき。
- ③路線バスを走らせるだけでは客は乗らないので、南部に注目を集めるような企画が必要。終着駅の糸満観光農園まで足を運ぶことで、何かの企画に参加する方法も良いし、バスに乗るところから企画が始まっているというものでも良い。複合した楽しみ、または期待感で人を惹きつけることが必要。
- ④8月から始めるならば、3月中旬からPRをしなければ、時間が足りない。宣伝方法にも工夫が必要。観光客の滞在中に目に留まるような方法が重要。

以上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年11月6日（水）14時50分～15時50分
 - 視察先：株式会社JTB
 - 対応者：沖縄国内商品事業部 仕入販売第一課 照屋昭子 担当課長
田場隆浩グループリーダー
 - 視察者：（政策推進課）喜納正光
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①着地型商品に“路線バスの商品化”を加えることの可能性と、バス路線の乗降客を増やすための方策について、観光客としての意見等について伺う。

2. 路線バスの商品化について

（1）現在のJTBの取組み

- ①個人向け商品に“ゆいゆい号”を取込んでいる。
- ②只今、来年4月以降の商品について作成中。その後に、第2・第3ブランドの商品の作成に着手。
- ③夏のターゲットは、家族連れとなる。

（2）乗降客を増やす方策（アピールポイント）

- ①那覇市内とつなぐよう客の動線に配慮すべき。那覇空港発着だけでなく、久茂地から“うみそらトンネル”を通して那覇空港を経緯させるルートによって、那覇市内の宿泊者にも利用しやすくなる。
- ②リゾートに向かって40分毎に運行しているリムジンバスに対抗して、観光スポットを結ぶ路線バスであることを強調。
- ③観光客のレンタカー利用率84%から少しでも、路線バスに移行させるためには、かなりインパクトがある方法が必要。単に「70分で観光農園まで行きます。」では、観光客はバスに乗らない。
- ④外国人にとって、時間的にも安心感が持てるような観光コースの設定するプランが必要。
- ⑤今、来ている客をリピータにする方法と新規顧客の開拓のためには、糸満市がプロデュースする親子連れを狙った仕掛けが有効。観光客の集客率は、企画の良し悪しで左右される。
- ⑥Webでの紹介は効果があるので、旅行商品の中に入れるとか、関連情報とするなどの工夫をすると良い。

※ 地域密着型の商品開発であれば、地域交流事業部での対応となる。

以上

「糸満市那覇空港直行バス路線事業者ヒアリング報告」

- 日 時：平成25年11月7日（木）14時00分～14時50分
 - 視察先：沖縄ツアーリスト株式会社（OTS）
 - 対応者：観光部 寿盛哲也 次長
 - 視察者：（政策推進課）喜納正光、（株オオバ）武 米治郎
-

1. ヒアリングの趣旨（選定理由）

- ①着地型商品に"路線バスの商品化“を加えることの可能性と、バス路線の乗降客を増やすための方策について、ツアーリストとしての意見等について伺う。
- ②実証実験業務に加わることの可能性について、意見を伺う。

2. 路線バスの商品化について

（1）PRのポイント

- ①体験させることにより、入場料等によって、地元で金が落ちるしくみを考案すべき。
- ②那覇市内に宿泊している観光客も含めて、ターゲットにする。
- ③車内インフォメーションは、多言語（英語・中国語・韓国語）が不可欠。海外からの観光客は確実に伸びているので、外国人にも理解しやすい工夫が必要。
- ④インターネットを利用して、飛行機、ホテル、レンタカーなどを直接手配している傾向が高いため、Webサイトも充実を図るべき。
- ⑤路線バスの魅力について、最大限アピールする。

（2）乗降客を増やす方策

- ①路線バスに付加価値をプラスする。入場券の割引等、利用することで、乗客にお得感を与える。
- ②国内外からのフリーな観光客をターゲットにするために、ホテルや空港での案内所を活用する。
- ③個人が買う金額よりも、旅行社に売る金額を下げることで、メリットを作り出すことが出来る。
- ④早い段階から公表して、宣伝期間を長く取る。
- ⑤実験車両は、目立つようにカラーリングに配慮すべき。

3. 実証実験に参画する可能性について

運行の許可申請とか報告書の作成については、専門外なので出来ないが、交通に関するコンサルタント会社と共同で参画するならば可能。過去に共同した実績もある。

以上

8-4. 現在の路線バス運賃について

現状のバス運賃

現状の路線バスの運賃は、糸満バスターミナルから平和祈念堂入口までが460円であり、糸満バスターミナルから那覇バスターミナルは560円となっている。そのため、平和祈念堂から糸満バスターミナルを経由して那覇バスターミナルまでは1,020円を要する。

また、平和祈念公園から那覇空港までのタクシー料金は約3,500円であり、仮に3人での乗車であると1人当たり1,170円となり、バス利用とほとんど変化がない。

なお、観光客アンケート調査結果では、3人以上の構成は全体で37%となっているため、路線バス料金を低減させることにより、観光客の利用増を促進させることが望ましいと考える。

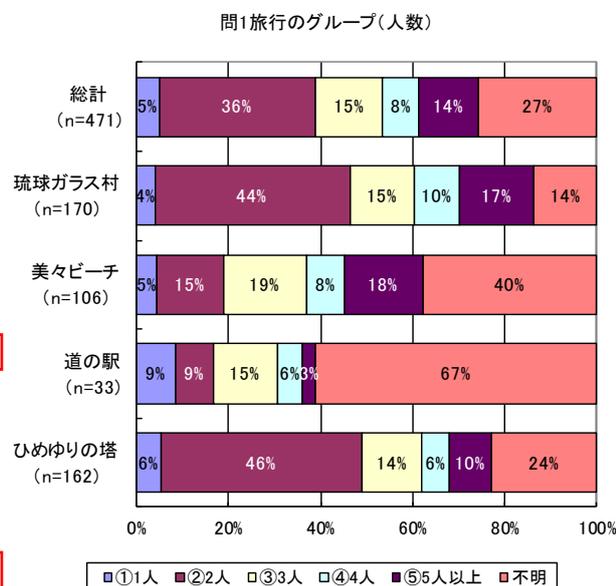
表 既存路線バスの運賃

□系統82		□系統35、235	
運賃	停留所	運賃	停留所
¥糸満バスターミナル		¥糸満バスターミナル	
160	糸満市役所入口	160	糸満市役所前
160	糸満市場入口	160	高嶺入口
160	糸満ロータリー	290	志多伯入口
160	糸満市場前	340	東風平
160	潮崎二丁目	440	外間
160	糸満市役所前	500	津嘉山
160	潮崎入口	540	国場
160	双子橋	560	沖縄大学前
160	糸満郵便局前	560	開南
160	真栄里入口	560	那覇バスターミナル
170	南部病院前		
200	名城		
200	小波蔵		
250	糸洲		
250	波平入口		
310	山城入口		
310	伊原入口		
310	伊原		
310	ひめゆりの塔前		
350	米須入口		
350	米須農協前		
350	米須		
350	大度		
420	晴明病院前		
420	摩文仁ファミリーランド前		
420	みなみの里前		
420	健児の塔入口		
460	平和祈念堂入口		

460円+560円
=1,020円

タクシー運賃
那覇空港～平和祈念資料館 3,440円
<http://www.taxisite.com/>

表 観光客の人数構成



8-5. 申請書類等

平成 年 月 日
発 第 号

内閣府 沖縄総合事務局
局 長 様

住 所
会社名
代表者名

一般乗合旅客自動車運送事業の事業計画変更（路線の新設）認可申請書

このたび一般乗合旅客自動車運送事業の事業計画を下記の通り変更したいので
関係書類を添えてお届け致します。

記

1. 氏名又は名称及び住所

住 所
会社名
代表者名

2. 事業の種類

一般乗合旅客自動車運送事業

2. 事業の種別

一般乗合旅客自動車運送事業

3. 変更しようとする路線

①延長路線

- | | |
|---------|--|
| (1) 起 点 | 沖縄県豊見城市豊崎 3-47 先 |
| 終 点 | 沖縄県糸満市西崎町 3-7-7 先 |
| 延長キロ | 1.5km |
| 道路種別 | 国道 331 号 |
| 主な経由地 | 沖縄県警察運転免許センター |
| | |
| (2) 起 点 | 沖縄県糸満市西崎町 3-7-7 先 |
| 終 点 | 沖縄県糸満市西崎町 3-7-12 先 |
| 延長キロ | 0.3km |
| 道路種別 | 市道 D2 号線 |
| 主な経由地 | 県営西崎第 2 団地 |
| | |
| (3) 起 点 | 沖縄県糸満市西崎町 1-29-15 先 |
| 終 点 | 沖縄県糸満市西崎町 1-10-1 先 |
| 延長キロ | 2.6km |
| 道路種別 | 市道 D2 号線、市道西崎 24 号線、市道西崎 22 号線、市道西崎 4 号線 |
| 主な経由地 | サザンビーチホテル&リゾート沖縄 |
| | |
| (4) 起 点 | 沖縄県糸満市西崎町 1-12-5 先 |
| 終 点 | 沖縄県糸満市字真栄里 1862 先 |
| 延長キロ | 2.5km |
| 道路種別 | 国道 331 号 |
| 主な経由地 | 糸満市役所 |
| | |
| (5) 起 点 | 沖縄県糸満市字真栄里 870 先 |
| 終 点 | 沖縄県糸満市福地 159-1 先 |
| 延長キロ | 2.1km |
| 道路種別 | 国道 331 号 |
| 主な経由地 | 特に記載する地名なし |
| | |
| (6) 起 点 | 沖縄県糸満市摩文仁 1088 先 |
| 終 点 | 沖縄県糸満市摩文仁 1018 先 |
| 延長キロ | 0.6km |

道路種別	糸満観光農園敷地内
主な経由地	特に記載する地名なし

②停留所の新設

- | | |
|-----------|--------------------|
| (1) 停留所名称 | 赤嶺駅前 |
| 設置位置 | 沖縄県那覇市赤嶺 143 先 |
| (2) 停留所名称 | 道の駅いとまん前 |
| 設置位置 | 沖縄県糸満市西崎町 4-19-1 |
| (3) 停留所名称 | サザンビーチホテル前 |
| 設置位置 | 沖縄県糸満市西崎町 1-6-1 |
| (4) 停留所名称 | 琉球ガラス村前 |
| 設置位置 | 沖縄県糸満市字福地 169 番地 |
| (5) 停留所名称 | 糸満観光農園前 |
| 設置位置 | 沖縄県糸満市字摩文仁 1018 番地 |

4. 事業計画

(1) 主たる事業所及び営業所の名称並びに位置

種 別	名 称	位 置
主たる事務所		
営 業 所		

(2) 事業用自動車の総数、種別、乗車定員、常用・予備の別、所属営業所

イ. 車両数

常 用 4 台

予 備 1 台

(3) 系統別配置車両の最大寸法及び最大総重量

別 表

(4) 車両の位置及び収容能力

(現有の一般乗合事業用車庫を使用するので新設しない)

(5) 運 行

イ. 運行系統、料程、運行所要時間、始発終発時刻、運行回数、事業用自動車の種別ごとの数、所属営業所

運行系 統 名	料程	所要 時間	始発終発時刻		運行回数		自動車		所 属 営業所
					平日	休日	種別	車両数	
糸満市 ～那覇 空港直 行バス	25.2	70 分	那覇空 港国内 線ター ミナル	8 : 30	12	12	小型	常備 4	
				19 : 30				予備 1	

ロ. 停留所の名称及び位置並びに停留所間の料程

停留所の名称	料 程		摘 要	備 考
	区間キロ	累計キロ		
那覇空港国内線 ターミナル	0.0	—		既 設
那覇空港国際線 ターミナル	0.3	0.3		既 設
赤 嶺 駅 前	2.6	2.9		新 設
西崎運動公園前	6.2	9.1		既 設
道の駅いとまん	1.4	10.5	施設内	新 設
サザンビーチホ テル	1.5	12.0	施設内	新 設
道の駅いとまん	2.0	14.0	施設内	新 設
糸満漁港入口	1.1	15.1		既 設
糸満市役所前	0.3	15.4		既 設
真栄里入口	0.8	16.2		既 設
南部病院前	0.5	16.7		既 設
琉球ガラス村	2.3	19.0	施設内	新 設
ひめゆりの塔	1.7	20.7		既 設
米 須	0.8	21.5		既 設
平和祈念堂入口	2.6	24.1		既 設
糸満観光農園	1.1	25.2	施設内	新 設
	25.2	—		

ハ. 運行経路図

別紙1のとおり

ニ. 運行時刻

別紙2のとおり

ホ. キロ程表

別紙3のとおり

ヘ. 車両配置表

別紙4のとおり

1. 運行系統名

糸満市～那覇空港直行バス

2. 時間帯ごとの運行回数並びに始発及び終発時刻

時間・曜日等	指定時間帯/運行回数				始発時刻	終発時刻
	5時台～	9時台～	17時台～	21時台～		
	8時台	16時台	20時台	4時台		
平日の時間帯	1	8	3	0	8:30	19:30
土曜日の時間帯	1	8	3	0	8:30	19:30
日曜日の時間帯	1	8	3	0	8:30	19:30

糸満市～那覇空港直行バス 運行系統図



糸満市～那覇空港直行バス 運行時刻表（下り）

【下り】	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
国内線	8:30	9:30	10:30	11:30	12:30	13:30	14:30	15:30	16:30	17:30	18:30	19:30
国際線	8:31	9:31	10:31	11:31	12:31	13:31	14:31	15:31	16:31	17:31	18:31	19:31
赤嶺駅前	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
西崎運動公園前	9:04	10:04	11:04	11:54	12:54	13:54	14:54	16:04	17:04	18:04	19:04	20:04
道の駅いとまん	9:09	10:09	11:09	11:59	12:59	13:59	14:59	16:09	17:09	18:09	19:09	20:09
サザンビーチホテル	9:11	10:11	11:11	12:01	13:01	14:01	15:01	16:11	17:11	18:11	19:11	20:11
道の駅いとまん	9:14	10:14	11:14	12:04	13:04	14:04	15:04	16:14	17:14	18:14	19:14	20:14
糸満漁港入口	9:17	10:17	11:17	12:07	13:07	14:07	15:07	16:17	17:17	18:17	19:17	20:17
糸満市役所前	9:19	10:19	11:19	12:09	13:09	14:09	15:09	16:19	17:19	18:19	19:19	20:19
真栄里入口	9:29	10:29	11:29	12:19	13:19	14:19	15:19	16:29	17:29	18:29	19:29	20:29
南部病院前	9:30	10:30	11:30	12:20	13:20	14:20	15:20	16:30	17:30	18:30	19:30	20:30
琉球ガラス村	9:35	10:35	11:35	12:25	13:25	14:25	15:25	16:35	17:35	18:35	19:35	20:35
ひめゆりの塔	9:39	10:39	11:39	12:29	13:29	14:29	15:29	16:39	17:39	18:39	19:39	20:39
米須	9:41	10:41	11:41	12:31	13:31	14:31	15:31	16:41	17:41	18:41	19:41	20:41
平和祈念堂入口	9:46	10:46	11:46	12:36	13:36	14:36	15:36	16:46	17:46	18:46	19:46	20:46
糸満観光農園	9:50	10:50	11:50	12:40	13:40	14:40	15:40	16:50	17:50	—	—	—

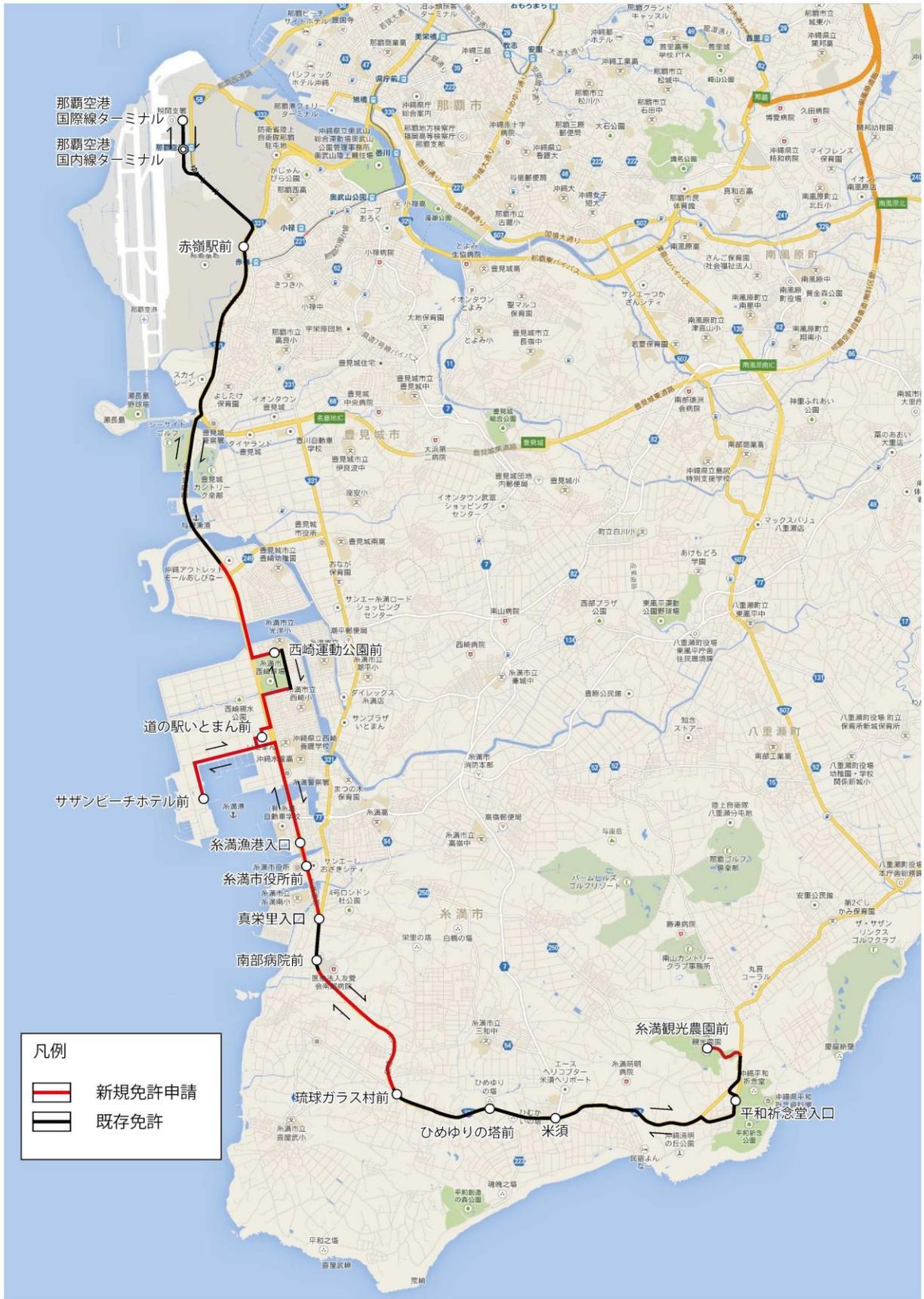
糸満市～那覇空港直行バス 運行時刻表（上り）

【上り】	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
糸満観光農園	—	—	—	9:40	10:40	11:40	12:40	13:40	14:40	15:40	16:40	17:40
平和祈念堂入口	6:44	7:44	8:44	9:44	10:44	11:44	12:44	13:44	14:44	15:44	16:44	17:44
米須	6:49	7:49	8:49	9:49	10:49	11:49	12:49	13:49	14:49	15:49	16:49	17:49
ひめゆりの塔	6:51	7:51	8:51	9:51	10:51	11:51	12:51	13:51	14:51	15:51	16:51	17:51
琉球ガラス村	6:55	7:55	8:55	9:55	10:55	11:55	12:55	13:55	14:55	15:55	16:55	17:55
南部病院前	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
真栄里入口	7:01	8:01	9:01	10:01	11:01	12:01	13:01	14:01	15:01	16:01	17:01	18:01
糸満市役所前	7:11	8:11	9:11	10:11	11:11	12:11	13:11	14:11	15:11	16:11	17:11	18:11
糸満漁港入口	7:13	8:13	9:13	10:13	11:13	12:13	13:13	14:13	15:13	16:13	17:13	18:13
道の駅いとまん	7:16	8:16	9:16	10:16	11:16	12:16	13:16	14:16	15:16	16:16	17:16	18:16
サザンビーチホテル	7:19	8:19	9:19	10:19	11:19	12:19	13:19	14:19	15:19	16:19	17:19	18:19
道の駅いとまん	7:21	8:21	9:21	10:21	11:21	12:21	13:21	14:21	15:21	16:21	17:21	18:21
西崎運動公園前	7:26	8:26	9:26	10:26	11:26	12:26	13:26	14:26	15:26	16:26	17:26	18:26
赤嶺駅前	7:56	8:56	9:56	10:46	11:46	12:46	13:46	14:56	15:56	16:56	17:56	18:56
国内線	7:59	8:59	9:59	10:49	11:49	12:49	13:49	14:59	15:59	16:59	17:59	18:59
国際線	8:00	9:00	10:00	10:50	11:50	12:50	13:50	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00

糸満市～那覇空港直行バス 料程表

停留所の名称	料 程		
	区間キロ	累計キロ	備 考
国 内 線	0.0	—	
国 際 線	0.3	0.3	
赤 嶺 駅 前	2.6	2.9	
西崎運動公園前	6.2	9.1	
道の駅いとまん	1.4	10.5	
サザンビーチホテル	1.5	12.0	
道の駅いとまん	2.0	14.0	
糸満漁港入口	1.1	15.1	
糸満市役所前	0.3	15.4	
真栄里入口	0.8	16.2	
南部病院前	0.5	16.7	
琉球ガラス村	2.3	19.0	
ひめゆりの塔	1.7	20.7	
米 須	0.8	21.5	
平和祈念堂入口	2.6	24.1	
糸満観光農園	1.1	25.2	
	25.2	—	

糸満市～那覇空港直行バス





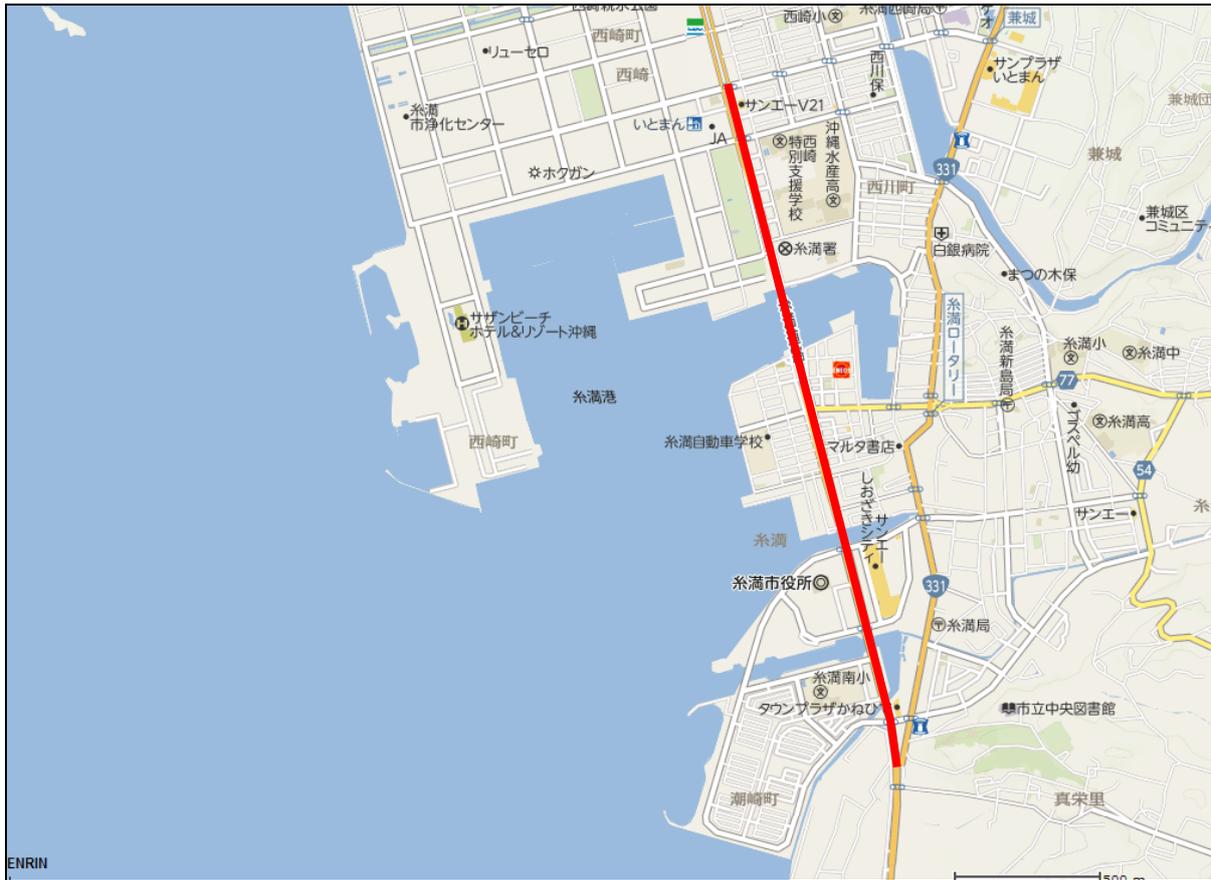
起 点	沖縄県豊見城市豊崎 3-47 先
終 点	沖縄県糸満市西崎町 3-7-7 先
延 長 キ ロ	1.5km
道 路 種 別	国道 331 号
主 な 経 由 地	—



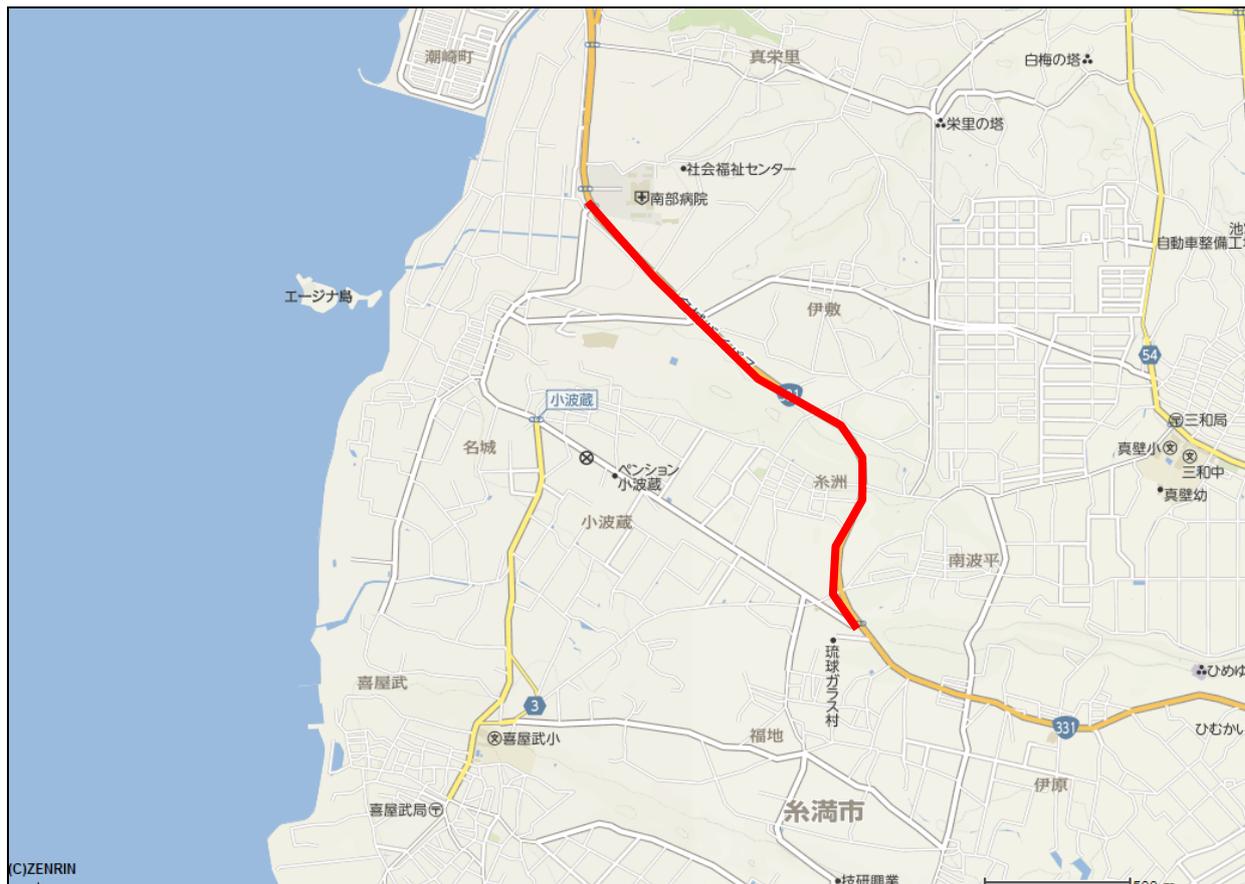
起 点	沖縄県糸満市西崎町 3-7-7 先
終 点	沖縄県糸満市西崎町 3-7-12 先
延 長 キ ロ	0.3km
道 路 種 別	市道D2号線
主 な 経 由 地	西崎運動公園



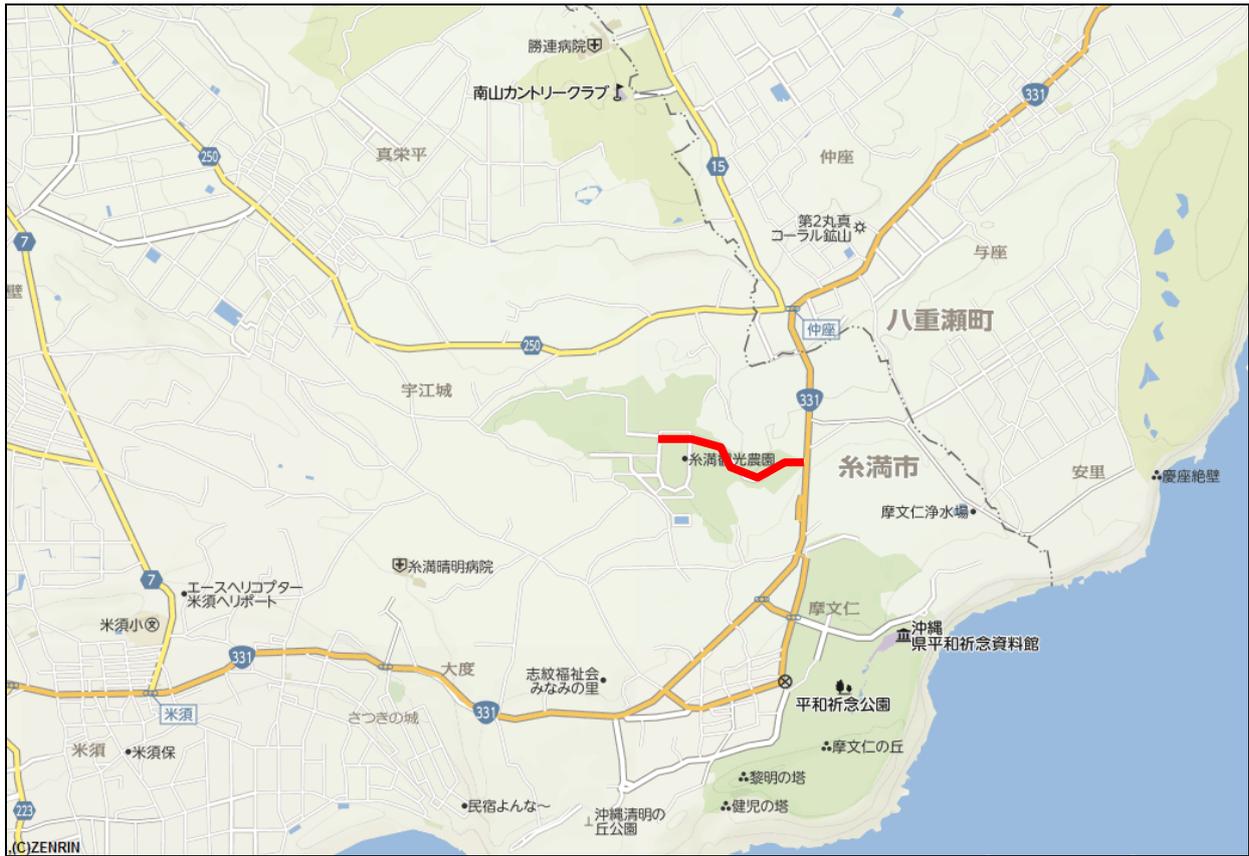
起 点	沖縄県糸満市西崎町 1-29-15 先
終 点	沖縄県糸満市西崎町 1-10-1 先
延 長 キ ロ	2.6km
道 路 種 別	市道D2号線、市道西崎24号線 市道西崎22号線、市道西崎4号線
主 な 経 由 地	サザンビーチホテル&リゾート沖縄



起	点	沖縄県糸満市西崎町 1-12-5 先
終	点	沖縄県糸満市字真栄里 1862 先
延	長	キ
道	路	種
主	な	経
		由
		地



起	点	沖縄県糸満市字真栄里 870 先
終	点	沖縄県糸満市福地 159-1 先
延	長	2.1km
道	路	国道 331 号
主	な	—
経	由	
地		



起	点	沖縄県糸満市摩文仁 1088 先
終	点	沖縄県糸満市摩文仁 1018 先
延	長	キ
道	路	種
主	な	経
		由
		地
		—

8-6. リーフレット (案)

沖繩の原風景
最南端エリアへ
バス散歩

糸満市～那覇空港
直行バス

イトマン ライン (仮)

2014年8月
試験運行開始

美々ビーチいとまん



糸満市公設市場



平和祈念公園



白銀堂



イトマンライン 仮



飛行機おりたらすぐ糸満!

糸満市↔那覇空港

直行バス実証実験(試験運行)のご案内

運行期間 平成26年8月～12月、毎日運行

運行時間帯 午前8時～午後8時(那覇空港)

運行間隔 約60分間隔(那覇空港～糸満観光農園)

料金 那覇空港～糸満観光農園: 790円
那覇空港～道の駅いとまん: 490円
一日フリー乗車券: 1,500円

バス
ルート
マップ



●お問い合わせは 糸満市 企画開発部 政策推進課 TEL(098)840-8122/FAX(098)840-8157 ※運行案内は随時により変更する場合があります。

糸満市

美々ビーチいとまん

平和祈念公園

糸満市公設市場

白銀堂

サバニ

バス散歩
最南端エリアへ
沖縄の原風景

イトマンライン
イトマンライン

糸満市～那覇空港
直行バス

イトマン ライン(仮)

2014年8月
試験運行開始

飛行機おりたらすぐ糸満!

糸満市↔那覇空港

直行バス実証実験(試験運行)のご案内

- 運行期間 平成26年8月～12月、毎日運行
- 運行時間帯 午前8時～午後8時(那覇空港)
- 運行間隔 約60分間隔(那覇空港～糸満観光農園)
- 料金 那覇空港～糸満観光農園:790円
那覇空港～道の駅いとまん:490円
一日フリー乗車券:1,500円

糸満市



糸満市～那覇空港直行バス実証実験(試験運行)のご案内

- 運行期間** 平成26年8月～12月、毎日運行
- 運行時間帯** 午前8時～午後8時(那覇空港)
- 運行間隔** 約60分間隔(那覇空港～糸満観光農園)
- 料金** 那覇空港～糸満観光農園: **790円** / 那覇空港～道の駅いとまん: **490円**
一日フリー乗車券: **1,500円**

●お問い合わせは 糸満市 企画開発部 政策推進課
TEL(098)840-8122/FAX(098)840-8157

※運行案内は諸事情により
変更する場合があります。

8-7. 糸満市那覇空港直行バス路線実証実験検討委員会及び幹事会

(1) 糸満市那覇空港直行バス路線実証実験検討委員会 設置要領

＜平成25年7月25日 企画開発部長決裁＞

(趣旨)

第1条 「新しい公共交通検討事業」調査報告書で示された那覇空港直行路線について、総合的な見地から検討を行い必要な助言等を行うために糸満市那覇空港直行バス路線実証実験検討委員会（以下「委員会」）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会の所掌事項は次に掲げるとおりとする。

- (1) 実証実験路線の具体的なルートに関する事。
- (2) 実証実験路線の運行間隔、運行時間帯設定に関する事。
- (3) 実証実験の運行計画に関する事。
- (4) その他路線の実証実験に関する事。

(委員の組織)

第3条 委員会は18名以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 有識者
- (3) 各種団体の代表者
- (4) 専門家
- (5) 行政職職員
- (6) その他市長が必要と認める者

(委員長)

第4条 委員会は、委員長を置き、委員長は委員互選によりこれを定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめその指名する委員がその職務を代理する。

(任期)

第5条 委員の任期は、平成26年3月末日までとする。

2 委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、残任期間とする。

(会議)

第6条 委員会は、必要に応じて委員長が招集し、委員長が議長となる。

(関係者の出席)

第7条 委員長が必要と認めるときは、関係者の出席を求め、その説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、企画開発部政策推進課が処理する。

(補則)

第9条 この要領に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員長が別に定める。

附 則

- 1 この要領は、平成25年7月25日から施行する。
- 2 この要領は、平成26年3月31日限り効力を失う。

糸満市那覇空港直行バス路線実証実験検討委員会

分野名	氏名	所属・役職
委員 (16名)	大城 郁寛	琉球大学 法文学部 教授
	屋嘉比 康人	真栄里自治 会長
	大城 栄子	女性団体連絡協議会 更生保護女性会
	若林 伸一	南部広域観光協会 副会長
	慶田 佳春	沖縄バス協会 専務理事
	小野 協子	総合事務局 運輸部 企画室長
	古堅 宗安	総合事務局 運輸部 陸上交通課長
	根保 裕次	組合関係 琉球バス組合 書記長
	真栄城 朝雄	琉球バス 業務部長
	照屋 悟	南部国道事務所 副所長
	又吉 長賢	糸満警察署 交通課長
	多嘉良 斉	沖縄県 企画部 交通政策課長
	下地 貴子	沖縄コンベンションビューロー 国内事業部長
	長嶺 薫	糸満市 建設部長
	大城 治	糸満市 市民健康部長
	金城 靖	糸満市 経済観光部長
兼島 景孝	糸満市 企画開発部長	
事務局	神谷 和男	糸満市企画開発部 政策推進課 課長
	賀数 康広	政策推進課 主幹兼係長
	喜納 正光	政策推進課 副主査
受託業者	佐藤 修	(株)オオバ 沖縄支店長
	武 米治郎	(株)オオバ 沖縄支店 まちづくり部長
	木村 一	(株)オオバ 沖縄支店 まちづくり部 課長
	翁長 秀樹	(株)オオバ 沖縄支店 営業課 主任
	吉岡 誠	(株)オオバ 九州支店 まちづくり部 主任

(2) 糸満市那覇空港直行バス路線実証実験検討幹事会 設置要領

(設置)

第1条 新しい公共交通検討事業（以下「検討事業」という。）を実施するにあたり、検討業務の受託機関である株式会社オオバにおいて、「糸満市那覇空港直行バス路線実証実験検討幹事会」（以下「幹事会」という。）を設置する。

(目的)

第2条 幹事会は検討事業に資するため、バス利用者の利便性や社会活動に考慮した新しい公共交通の導入のあり方、事業手法や収支計画などの事項に関し、総合的な見地から協議することを目的とする。

(組織)

第3条 幹事会は、別表に掲げる者をもって組織する。

2 幹事会に座長を置き、座長に糸満市企画開発部部長、副座長に学識経験者を充てる。

(幹事会)

第4条 幹事会は、必要に応じて株式会社オオバが招集する。

2 座長は幹事会を総理し、副座長は座長が欠けたときはその職務を代行する。

3 座長は必要があると認めたときは、幹事会以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(任期)

第5条 幹事の任期は平成26年3月31日までとする。

(事務局)

第6条 幹事会の事務局は、株式会社オオバ沖縄支店に置く。

(雑則)

第7条 この要領に定めるもののほか、幹事会の運営に必要な事項は、座長が事務局と協議のうえ定める。

附 則

この要領は、平成25年8月22日から施行する。

糸満市那覇空港直行バス路線実証実験幹事会 名簿

分野名	氏名	所属・役職
幹事 (6名)	大城 郁寛	琉球大学 法文学部 教授
	大城 貢	琉球ガラス村 理事
	小橋川 共隆	(株)琉球バス交通 経理課 課長代理
	兼島 景孝	糸満市 企画開発部 部長
	仲吉 正弘	糸満市 市民健康部 市民生活環境課 課長
	上原 司	糸満市 経済観光部 商工観光課 課長

(3) 会議一覧

検討委員会及び検討幹事会は、次のとおり開催された。

委員会・幹事会	開催日・時間	場 所	内 容
第1回 検討幹事会	平成25年8月22日(木) 10:00~12:00	糸満市役所3階 3b会議室	①検討の進め方 ②アンケート調査実施計画
第1回 検討委員会	平成25年8月27日(火) 10:00~12:00	糸満市役所3階 3C会議室	①検討の進め方 ②アンケート調査実施計画
第2回 検討幹事会	平成25年10月18日(金) 10:00~12:00	糸満市役所3階 3b会議室	①観光客アンケート調査結果 ②運行計画(素案) ③地域住民アンケート調査票
第2回 検討委員会	平成25年10月25日(金) 10:00~12:00	糸満市役所3階 3C会議室	①観光客アンケート調査結果 ②運行計画(素案) ③地域住民アンケート調査票
第3回 検討幹事会	平成25年11月22日(金) 10:00~12:00	糸満市役所4階 土地開発公社会議室	①運行計画(案) ②利用促進策
第3回 検討委員会	平成25年12月25日(水) 10:00~12:00	糸満市役所3階 3C会議室	①運行計画(案) ②利用促進策
第4回 検討幹事会	平成26年1月24日(金) 10:00~12:00	糸満市役所 3b会議室	①事業収支 ②成果指標・見直し基準(案) ③実証実験に向けて
第4回 検討委員会	平成26年2月7日(金) 10:00~12:00	糸満市役所3階 3C会議室	①成果指標・見直し基準(案) ②実証実験に向けて ③リーフレット(案)

新しい公共交通検討事業調査報告書

(那覇空港直行バス路線実証実験計画策定)

発行 平成 26 年 3 月

発行者 沖縄県糸満市

糸満市企画開発部政策推進課

〒901-0392 沖縄県糸満市潮崎町 1 丁目 1 番地

電話 (098) 840-8122 FAX (098) 840-8157
